

令和元年度厚生労働省
老人保健事業推進費等補助金
(老人保健健康増進等事業分)

科学的介護データの分析に資する 介護行為の実態把握に係る調査研究事業 報告書

令和2(2020)年3月

MRI株式会社三菱総合研究所

ヘルスケア・ウェルネス事業本部

目次

1. 目的と事業概要等	1
1.1 目的	1
1.2 検討委員会の設置等	2
1.3 事業概要	3
(1) 検討委員会の設置	3
(2) 介護行為の実態把握に関する調査の方法と結果等	3
(3) ICHI (International Classification of Health Interventions) について	3
2. 介護行為の実態把握に関する調査の方法と結果等	4
2.1 調査対象施設・事業所	4
2.2 調査方法	5
(1) 事前ヒアリング調査に目的、内容等	5
(2) アンケート調査の目的、内容等	5
(3) タイムスタディ調査の目的、内容等	8
(4) 事後ヒアリング調査の目的、内容等	9
2.3 調査結果	14
(1) 事前ヒアリング調査結果	14
(2) アンケート調査結果	15
(3) タイムスタディ調査結果	25
2.4 調査結果のまとめ	28
3. ICHI (International Classification of Health Interventions) とケアコードの比較	30
3.1 目的	30
3.2 ICHI (International Classification of Health Interventions) の概要	30
3.3 比較結果	32
参考資料	42
参考資料：職員向けアンケート調査票	42
参考資料：タイムスタディ調査記録票	52
参考資料：タイムスタディ調査 ケアコード表	53
参考資料：タイムスタディ調査 調査員研修記録	60
参考資料：タイムスタディ調査 調査員マニュアル	61

1. 目的と事業概要等

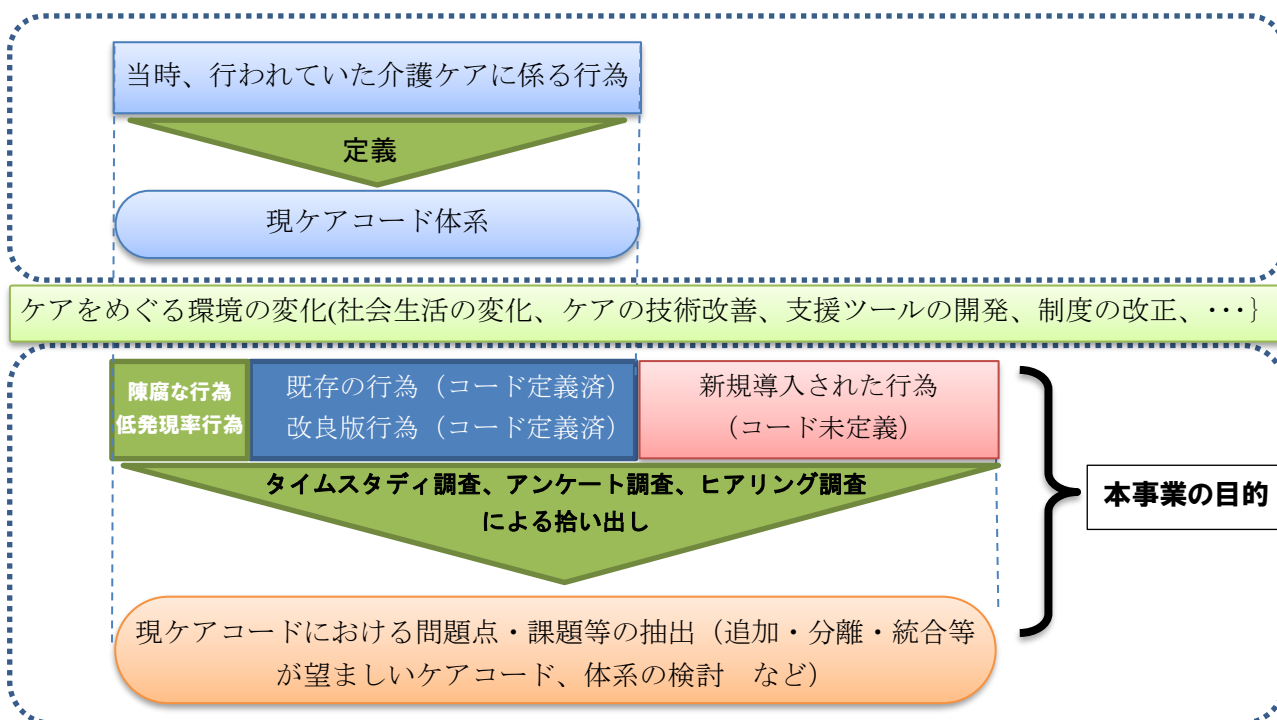
1.1 目的

今後の科学的介護の分析に資する資料を作成するため、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院、認知症対応型共同生活介護事業所及び特定施設入居者生活介護事業所において、高齢者に提供される介護行為の把握・分類を行い、高齢者に対して、どのような目的で、どのような介護行為が提供されているかを調査し、介護保険制度の改訂や介護技術・介護ツールの新たな登場により生じた新たな介護行為の拾い出しを行うことを目的に実施した。

具体的には、従来の介護行為を体系化しているケアコード表をベースに、介護技術の進展や介護を取り巻く状況の変化、介護に用いられる機器等の普及や高機能化等に伴って新たに生じたケア行為、あるいは、ほとんど行われていなかったり置き換えられたりしているケア行為を、タイムスタディ調査、アンケート調査などにより明らかにし、その上で、今後のケアコードのあり方に向けた課題等を検討し、提案を行うことを目的とした。

なお、本事業では、介護行為のうち、直接業務を中心にしつつ、間接業務も把握することとした。

※高齢者介護実態調査(H18年度)で使用



1.2 検討委員会の設置等

介護現場の実情を把握されている有識者及び各施設団体から推薦いただいた方々から構成される検討委員会を設置した。

この場をお借りしてお礼申し上げます。

委員名簿

<委員> (※：委員長)		(敬称略・五十音順)
石踊 紳一郎	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 介護保険事業等経営委員会 特別養護老人ホーム部会 部会長	
鈴木 龍太	日本慢性期医療協会 常任理事 日本介護医療院協会 会長	
塚本 友紀	公益社団法人全国有料老人ホーム協会 理事	
繁澤 正彦	公益財団法人日本認知症グループホーム協会 常務理事	
東 憲太郎	公益社団法人全国老人保健施設協会 会長	
※藤井 賢一郎	上智大学総合人間科学部社会福祉学科 准教授	
村松 圭司	産業医科大学公衆衛生学教室 准教授	
<オブザーバー>		
石丸 文至	厚生労働省 老健局老人保健課 課長補佐	
佐々木 俊哉	厚生労働省 老健局老人保健課 介護認定係長	

検討の経緯は下記の通りである。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、委員会は、第1回のみ実施した。

		主な議題 (案)
第1回委員会	12月26日	○事業実施計画について ○調査方法等について (想定される新たな介護行為等について)

1.3 事業概要

(1) 検討委員会の設置

介護現場の実情を把握されている有識者及び各施設団体から推薦いただいた方々から構成される検討委員会を設置した。

検討委員会は、新型コロナウイルス感染症の影響があり、第1回のみ開催であった。

(2) 介護行為の実態把握に関する調査の方法と結果等

調査対象は、下記の5つのサービスについて、団体から推薦された各1施設計5施設を予定した。

また、調査は、それぞれの施設について事前のヒアリング調査、職員向けアンケート調査、タイムスタディ調査及び事後のヒアリング調査を実施することを予定した。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、施設への立ち入りや協力を得ることが困難となり、事前のヒアリング調査と職員向けアンケート調査は4施設、タイムスタディ調査は1施設のみ実施した。

それらの結果から、社会的変化に伴う介護ロボットやICT機器の導入に伴う研修や準備、機器の操作、確認などの行為が生じている。また、制度的な変化に伴い、例えば、口腔ケアや利用者宅への訪問などの行為が増加している。その他、施設・事業所の利用者の状態像の変化などによる更衣の変化などが生じていることが考えられた。

(3) ICHI (International Classification of Health Interventions) について

検討委員会での指摘を踏まえ、ケアコードと関連する ICHI (International Classification of Health Interventions) について整理を行った。

2. 介護行為の実態把握に関する調査の方法と結果等

2.1 調査対象施設・事業所

調査対象施設・事業所は、下記の5つのサービス種別を対象とした。

<対象としたサービス種別>

- 介護老人福祉施設
 - 介護老人保健施設
 - 介護医療院
 - 認知症対応型共同生活介護事業所
 - 特定施設入居者生活介護事業所
- } それぞれ1施設・事業所

それぞれのサービス種別について、下記のような選定条件を可能な範囲で考慮の上、それぞれの関連する団体に推薦を依頼し、その結果を踏まえて対象とした。

<選定条件> ※可能な範囲で考慮。

- ① ロボット・ICT等を積極的に活用していること
- ② 近年、新設するなど、新たな取組み等を行っている(と思われる)こと
- ③ 1～2月にタイムスタディ調査やアンケート調査にご協力いただけること
- ④ (可能であれば)東京近郊に立地していること

図表 1 調査対象施設

種別	紹介依頼先団体名	対象施設(略称)	所在地
介護老人福祉施設	全国老人福祉施設協議会	介護老人福祉施設 A	東京都
介護老人保健施設	全国老人保健施設協会	介護老人保健施設 B	千葉県
介護医療院	日本介護医療院協会	介護医療院 C	神奈川県
認知症対応型共同生活介護事業所	日本認知症グループホーム協会	認知症グループホーム D	東京都
特定施設入居者生活介護事業所	全国有料老人ホーム協会	特定施設入居者生活介護 E	東京都

2.2 調査方法

調査目的を踏まえ、調査対象の施設・事業所を対象に、事前ヒアリング調査、アンケート調査、タイムスタディ調査、事後ヒアリング調査を実施することを予定した。

それぞれの調査の概要は以下の通りである。

(1) 事前ヒアリング調査に目的、内容等

調査対象施設・事業所に対し、事前のヒアリング調査を実施した。

【目的】

近年の介護行為の変化に与える可能性のある動きや社会環境の変化等について把握し、アンケート調査やタイムスタディ調査の調査票設計等（記入回答の例示やケアコード項目等）に反映することを目的とした。

具体的には、施設・事業所における、近年の介護行為等にかかわる環境等の変化を把握するとともに、施設・事業所としての介護行為の変化（新たな介護行為、減少した介護行為等）の概要等について把握した

【調査の対象】

施設・事業所の管理者、介護関連の主任等を対象とした。

【調査項目】

- 施設・事業所の基本的な情報（設立年、利用者数、職員数）
- 法人・事業所の理念・基本方針、研修計画とその変化
- ロボットやICT導入、あるいは、最近の加算等への対応の方針と状況
- 近年、介護行為に関連し、直接業務と間接業務で、新たに加わったあるいは増加した業務について（例：介護用ロボットの設置準備・片付けの業務、ICT機器のための研修業務 など）
- 近年、業務として減少している介護行為について
- その他

(2) アンケート調査の目的、内容等

①アンケート調査について

調査対象施設・事業所の一部の職員を対象に、アンケート調査を実施した。

【目的】

介護職員からみた介護行為の内容について、近年、変化している行為とその行為が必要な利用者の状況・状態、行為が変化している要因などについて幅広く把握し、介護行為の変化の動きや内容を把握した。

また、タイムスタディ調査の実施にあたり参考となる介護行為を抽出することも目的とした。

なお、介護行為については、ケアコードを参考としつつ、把握した。加えて、施設職員が日常業務を通じて感じる「新たなケア行為」を幅広く収集した。これにより、タイムスタディ調査では補足が難しい、間接行為や毎日発生しない行為等を含めて、職員目線の新たなケア行為を把握することも目指した。

【対象】

介護関連の業務に従事した経験を概ね5年以上有する介護職員（調査対象施設・事業所の勤務年数ではなく、介護職員としての経験年数を基本とする）を対象とした。

【調査方法】

調査対象施設・事業所の事務局を通じて、該当する職員にアンケート調査一式（依頼状、これまでのケアコード表、アンケート調査票、返信用封筒）を配布いただき、事務局にて取りまとめにより回答を得た。

【調査項目】

- 職員の属性等（経験年数、現在の職種等）
- 最近5年間で、提供する回数や時間、内容（やり方）や考え方などが変化したと感じる介護行為について、変化の有無、その介護行為を行う利用者の状況・状態、介護内容の変化及び変化の要因、特に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボットの有無について（概ね自由回答形式）
- ケアコードの大分類に加え、対象者に直接関わらない業務（連絡調整、記録・文書作成、入院（所）者の病棟等環境整備・掃除、入院（所）者の物品管理（物品購入を含む、巡回・見渡し、職員に関すること）、その他別に把握

②アンケート調査における業務分類について

アンケート調査票は、事前ヒアリングや委員会での検討を踏まえて、以下の方針で設計した。

- 新たな介護業務を洗い出す目的であるため、既知の選択肢を選ぶ方法を用いることはできないため、具体的な行う内容を記述する方式とした。
- 介護業務をケアコード別に記載することを検討したが、現場の職員はケアコードを意識して業務を行っているわけではないので、具体的な業務名を示して記述してもらうこととした。業務分類はケアコードの大分類とし、次頁の通りとした。間接業務に係わる大分類0は、業務が増えているという想定の下、中分類、さらには小分類まで分解した上で、記入様式を作成した。これらの項目に分類できない業務がある場合を想定し、これらに当てはまらない業務についての設問を設定した。
- 業務分類ごとに、変化の有無、変化が感じられたときの利用者の状況・状態、介護内容の変化、変化の要因について記載する内容とした。変化の要因については、特にICT機器や介護ロボットの利用について、具体的な名称を記入する様式とした。
- 回答する職員が該当する業務を思い浮かべやすくするため、具体例を盛り込んだ回答に関する説明を加えた。

上記の方針で作成したアンケート調査票は、参考資料として添付した。

図表 2 アンケートに用いた介護業務の分類

No	業務名(大分類)	含まれる介護行為
1	入浴・清潔保持・整容・更衣 (大分類1) 関連	入浴、清拭、洗髪、洗面・手洗い、口腔・耳ケア、月経への対処、整容、更衣
2	移動・移乗・体位交換 (大分類2) 関連	敷地内の移動、移乗、起座、起立、その他の体位変換、介助用具の着脱
3	食事(大分類3) 関連	調理、配膳・下膳、食器洗浄・食器の片づけ、摂食、水分摂取
4	排泄(大分類4) 関連	排尿、排便
5	生活自立支援 (大分類5) 関連	洗濯、清掃・ごみの処理、整理整頓、食べ物の管理、金銭管理、戸締まり・火の始末・防災、目覚まし・寝かしつけ、その他の日常生活(集う・テレビを見る・読書をする・たばこを吸うなど)、相談・助言・指導を含む会話・その他のコミュニケーション
6	社会生活支援 (大分類6) 関連	行事・クラブ活動、電話・FAX・E-mail・手紙、文書作成、来訪者への対応、外出時の移動、外出先での行為、職能訓練・生産活動、社会生活訓練
7	行動上の問題 (大分類7) 関連	行為上の問題の発生時の対応、行為上の問題の予防的対応、行為上の問題の予防的訓練
8	医療(大分類8) 関連	薬剤の使用、呼吸器・循環器・消火器・泌尿器にかかる処置、運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉・歯科及び手術にかかる処置、観察・測定・監査、指導・助言、病気の症状への対応
9	機能訓練(居室での機能訓練を含む)(大分類9) 関連	基本日常生活訓練、応用日常生活訓練、言語・聴覚訓練、スポーツ訓練、牽引・温熱・電気療法
10	対象者に直接関わらない業務 (大分類0) 関連	連絡調整
11	対象者に直接関わらない業務 (大分類0) 関連	記録・文書作成
12	対象者に直接関わらない業務 (大分類0) 関連	入院(所)者の病棟等環境整備・掃除
13	対象者に直接関わらない業務 (大分類0) 関連	入院(院)者の物品管理(物品購入を含む)
14	対象者に直接関わらない業務 (大分類0) 関連	巡回、見渡し
15	対象者に直接関わらない業務 (大分類0) 関連	職員に関すること

(3) タイムスタディ調査の目的、内容等

調査対象施設・事業所を対象に、タイムスタディ調査を実施した。

事前ヒアリング等に基づいてタイムスタディ調査に用いるケアコード表の検討を行った上で、対象施設・事業所でのタイムスタディ調査を行った。

今回、タイムスタディ調査においては、利用者に対して行われる介護行為(直接業務)における変化を把握することを主たる目的とした。このため、利用者をベースとしたタイムスタディ調査とした。

【目的】

利用者に対して行われる介護行為(直接業務)から、これまでのケアコード表の見直し等にかかわる内容等を抽出することを目的とした。

【調査方法等】

対象となる利用者が提供される介護行為について、調査員が観察し、記録する方式で調査を実施した。

調査では、以下の内容を記録した。

①介護行為の内容の記録、その所要時間(既存のケアコードに対応する場合は、ケアコードを含む)

②介護行為が行われた際の利用者の状況等(居室、リビング等、ベッド上、歩行等)
平成18年度に実施された高齢者介護実態調査のケアコード表に基づき、「新たなケア行為」を記録しやすくする「その他コード」を中分類ごとに設定したものを活用した。

【調査の対象期間】

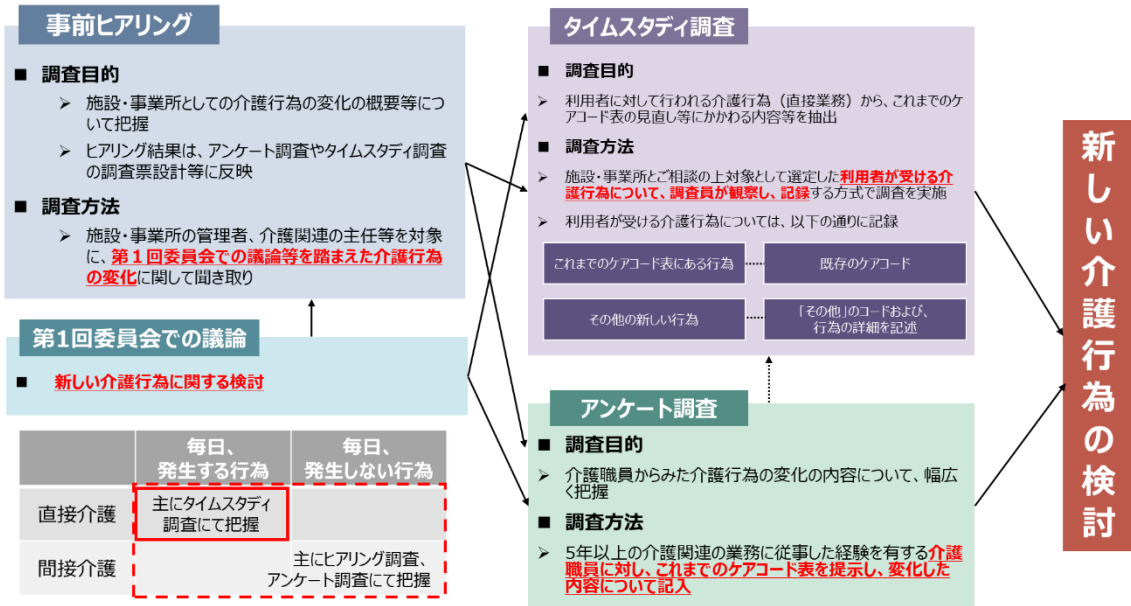
調査の対象期間として、特定の1日(起床時刻から就寝時刻 概ね朝7時から夜7時ごろ)とし、実施する施設・事業所の状況に合わせて柔軟な対応を行った。

【選定する利用者について】

施設・事業所とご相談の上選定するが、選定にあたっては、以下のような点を踏まえて施設・事業所と相談した。対象者数は、施設・事業所の定員等を踏まえ、概ね1施設・事業所あたり最大8人程度とした。

- 介護ロボット等による介護行為を受けている利用者
- 認知症等の症状を有する利用者
- 比較的、日中の活動が活発な利用者 など

図表 3 調査設計の全体像



(4) 事後ヒアリング調査の目的、内容等

アンケート調査やタイムスタディ調査の結果を踏まえつつ、施設・事業所における介護行為の変化の内容とその背景、要因等について、施設・事業所の職員に確認等を行うために、事後ヒアリング調査を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施には至らなかった。

(5) 調査実施にあたり変化等が想定される介護行為の整理

調査の実施にあたり、まず、介護行為の変化に影響を及ぼすと想定される要因について、次のように整理した。

【介護行為の変化に影響を及ぼすと想定される要因について】

○社会的な環境変化に伴う要因

- ・介護ロボットや ICT 機器等、新たな技術と結びついた介護行為
(介護行為そのものとしては従来と同じであっても、そのための準備等の間接業務、実施における直接業務のケア内容の変化 等)

○制度面の変化に伴う要因

- ・制度の変遷等と関連し、重視されるようになった事象と関連する介護行為

○利用者の状況等の変化に伴い、増加あるいは減少する介護行為

社会的な環境変化としては、ケアに関する技術の改善等をもたらす介護ロボットまたは ICT 機器の導入が挙げられる。

また、制度面の変化としては、定期的に行われる介護報酬改定による変化が考えられる。平成 24 年度以降の介護報酬改定における次の流れに注目する必要があると考えた。

- ① 認知症行動・心理症状への対応強化
- ② 個別ユニット化の推進
- ③ 重度化への対応
- ④ 在宅復帰支援機能の強化
- ⑤ 看取りの対応の強化
- ⑥ 夜間における利用者の安全確保の推進
- ⑦ 口腔・栄養管理に係る取組の充実
- ⑧ 医療ニーズへの対応
- ⑨ 肺炎等への対応の強化
- ⑩ 褥瘡の発生予防
- ⑪ 身体的拘束等の適正化の推進
- ⑫ 地域連携パスの評価
- ⑬ その他（人員体制関連、指定基準関連）

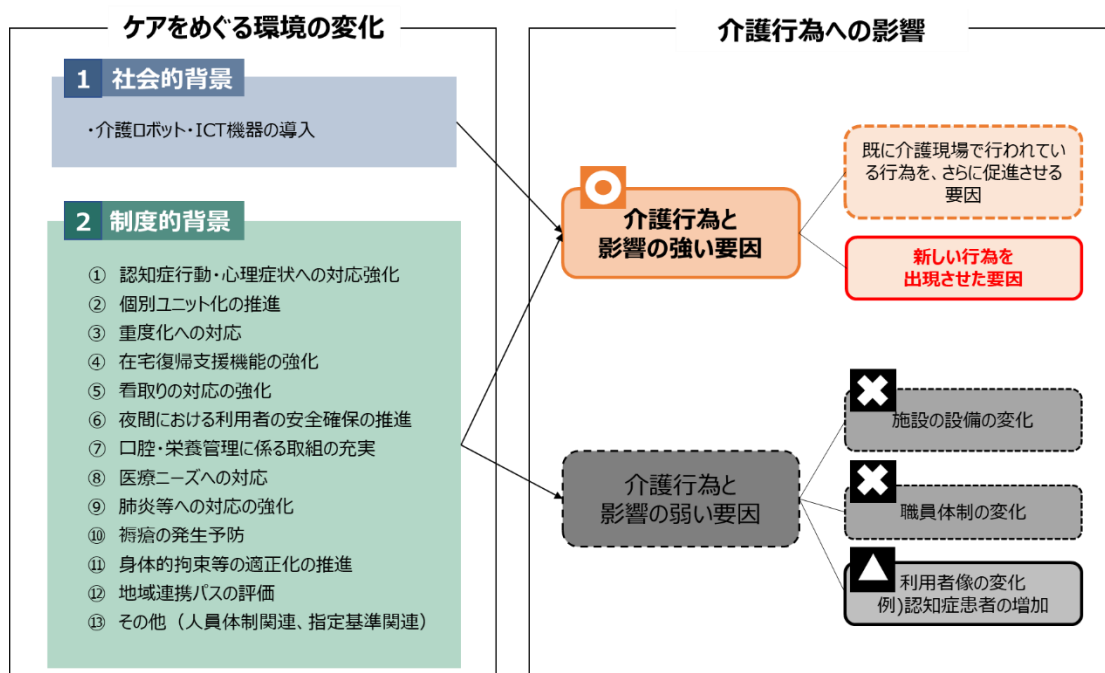
しかし、社会的な環境変化と制度面の変化の内容により、介護行為の変化に与える影響には大小があると考えられる。そこで、これら要因あるいはその具体的な内容ごとに、介護行為の変化に大きな影響をもたらす「影響の強い要因」と、それほどの変化には至らない「影響の弱い要因」に分類できると考えた。

「影響の強い要因」は、既に介護現場で行われている行為をさらに促進させる内容と、新しい行為を出現させた要因を想定した。

「影響の弱い要因」は、施設の設備に関する改訂、人員の配置基準等に関する改定、などを想定した。また、利用者像の変化を促すと思われる要因もこの分類と想定した。

これらのケアをめぐる環境の変化の要因とその分類の考え方をまとめると、次のようになる。

図表 4 調査検討のポイント



以上のような考え方を踏まえ、社会的変化と制度的変化について、具体的な変化の大まかな流れ、それら流れ別に介護行為の変化に与える影響の大きさを整理すると、次の図表のようになった。

図表 5 ケアをめぐる環境の変化と介護行為の変化の関係性（概要）

ケアをめぐる環境の変化		介護行為の変化			
種別	主な流れ	○：関連が強い	△：利用者像の変化	×：関連が弱い	
社会的変化	介護ロボット・ICT機器の導入	移乗支援	○		
		移動支援	○		
		排泄物処理	○		
		トイレ誘導	○		
		見守り	○		
		コミュニケーション	○		
		入浴支援	○		
		介護業務支援	○		
制度的変化	認知症行動・心理症状への対応強化	認知症行動・心理症状緊急対応加算の新設	○		
		若年性認知症入居者受入加算の新設	○		
		認知症専門ケア加算の新設		△	
	個別ユニット化の推進	ユニット型個室、従来型個室、多床室の報酬水準の適正化			×
		ユニット型個室の第3段階の利用者負担の軽減			×
		ユニット数の見直し			×
	重度化への対応	要介護度別の報酬設定		△	
		日常生活継続支援加算の見直し		△	
		生活機能向上連携加算の新設	○		
	在宅復帰支援機能の強化	基本施設サービス費の新設			×
		入所前後訪問指導加算の新設	○		
		在宅・入所相互利用加算の充実	○		×
		在宅強化型基本施設サービス費の強化			×
	看取りの対応の強化	在宅復帰・在宅療養支援機能加算の強化			×
		看取り介護加算の新設・強化	○		
	夜間における利用者の安全確保の推進	ターミナルケア加算の算定要件・評価の見直し	○		
		夜間支援体制加算の新設	○		
		夜間の支援体制の充実			×
		夜勤職員配置加算の見直し			×
	口腔・栄養管理に係る取組の充実	見守り機器の導入した場合の評価	○		×
		経口維持加算の見直し	○		
		経口移行加算の見直し	○		
		療養食加算の見直し	○		
		口腔機能維持加算（現・口腔衛生管理加算）の強化	○		
		口腔衛生管理体制加算の新設			×
		栄養スクリーニング加算の新設	○		
		低栄養リスク改善加算の新設	○		
	医療ニーズへの対応	再入所時栄養連携加算の新設	○		
		栄養マネジメント加算の要件緩和	○		
		医療連携体制加算の追加			×
		入所継続支援加算の新設		△	
		退院・退所時連携加算の新設			×
配置医師緊急時対応加算の新設				×	
肺炎等への対応の強化	退院後の再入居の受け入れの体制の基本報酬、初期加算の評価			×	
	かかりつけ医連携薬剤調整加算の新設	○			
褥瘡の発生予防	所定疾患施設療養費の新設	○			
身体的拘束等の適正化の推進	排せつ支援加算の新設	○			
地域連携バスの評価	身体拘束廃止未実施減算の新設・強化	○			
	地域連携診療計画情報提供加算の新設	○			

ケアをめぐる環境の変化		介護行為の変化			
種別	主な流れ	○：関連が強い	△：利用者像の変化	×：関連が弱い	
制度的変化	その他 (人員体制関連)	職員の専従要件の緩和	○		
		看護・介護職員に係る専従常勤要件の緩和	○		
		サービス提供体制加算	○		
		養護老人ホームにおけるサービス提供のあり方の見直し	○		
		機能訓練指導員の確保の促進	○		
	その他 (利用者関連)	要支援2の基本報酬の見直し		△	
		短期利用の要件緩和	○		
		短期利用の利用者数の上限の見直し		△	
		障害者生活支援体制加算の強化	○		
	その他 (指定基準関連)	法定代理受領の同意書の廃止	○		
		同一建物に併設できる施設・事業所の範囲の見直し	○		
		多床室における居住費負担の見直し	○		
		基本報酬の見直し	○		
		運営推進会議の開催方法の緩和	○		
		代表者交代時の開設者研修の取扱いの変更	○		
		外泊時に在宅サービスを利用したときの費用算定	○		
		ユニット型準個室のユニット型個室的多床室への変更	○		
介護医療院への転換の取り扱い（移行定着支援加算の新設）			×		

2.3 調査結果

新型コロナウイルス感染症の影響により、上記の調査のうち下記のみ実施することができた。それらの調査結果を整理すると以下の通りである。

図表 6 対象施設・事業所別の調査の実施状況

サービス種別	事前ヒアリング調査	アンケート調査	タイムスタディ調査	事後ヒアリング調査
介護老人福祉施設 A	未実施	未実施	未実施	未実施
介護老人保健施設 B	実施済	実施済	未実施	未実施
介護医療院 C	実施済	実施済	実施済	未実施
認知症グループホーム D	実施済	実施済	未実施	未実施
特定施設入居者生活介護 E	実施済	実施済	未実施	未実施

(1) 事前ヒアリング調査結果

事前ヒアリング調査において、アンケート調査やタイムスタディ調査の調査設計、あるいは社会的変化や制度的変化などによる介護行為の変化に関連する可能性のある内容を整理すると以下の通りである。

【介護老人保健施設 B】

ロボットとして見守りセンサーを導入し、主に夜間に活用することで、夜勤時の業務負担軽減に寄与している。

また、インカムを利用しているほか、記録の電子化を行っており、その結果、実績から請求まで連携できるように変化した。入力装置はデスクトップとタブレット、ノートパソコンを活用している。さらに、携帯可能なバイタル計測機器も活用している。

こうした新たな機器の導入、利用にあたっては、適宜、職員への研修等を行っており、これら教育・研修は、新たな業務となっていると考えられる。

一方で、入退院前の自宅訪問の業務が新たに加わっているとの指摘があった。

【介護医療院 C】

見守りセンサーを導入している。また、一部の病棟では、電子カルテを利用しており、そのためにノートパソコンを台車で運びながら利用している状況にある。

【認知症グループホーム D】

申し送りの手段として、スマートフォンを導入している。

また、重度の利用者の割合が高まっていることなどを背景に、それらの利用者へのベッドサイドでのケアの時間が増加している状況にある。

一方で、こうしたベッドサイドの業務の増加を補完するためのスタッフとの業務分担も進んできている。

【特定施設入居者生活介護 E】

法人単位でみると、見守りシステムや服薬管理システムが導入されてきており、そのための研修が必要となっている。

また、記録はタブレットを利用しており、入力にあたっては、用意された様式からの選択方法もできるようになっている。タブレットは、カメラとしても活用しており、家族への説明の際に写真等を活用することで、理解が進みやすいといった状況が生じている。

記録が電子化されることにより、申し送り等に要する時間も短縮がされる状況にある。

(2) アンケート調査結果

アンケート調査結果は、ケアコード別に整理した。

①回答状況

施設別の回答数とその職種、回答者のうち経験年数5年以上の状況は、サービス種別にそれぞれ以下の表のとおりである。

図表 7 アンケート調査の回答数、職種、経験年数5年以上の者の状況

(単位：人)

サービス種別	回答数	回答者の職種					経験年数 5年以上
		介護	看護	リハ	相談	その他	
介護老人保健施設 B	10	6	2		1	1	9
介護医療院 C	24	11	8	3	1	1	21
認知症グループホーム D	6	6					6
特定施設入居者生活介護 E	17	16				1	16

②入浴・清潔保持・整容・更衣（大分類1）関連

「入浴・清潔保持・整容・更衣（大分類1）関連」で最近5年間に変化があったとの回答は、合計で19件に達した。

介護老人保健施設 B では、口腔衛生に関する加算に関連して、口腔ケアに関連した介護行為への意識の変化や委員会活動等が見られるとの意見があった。

介護医療院 C では、褥瘡ケア加算の影響で関連するケアの時間への影響や吸引機を必要とする利用者が増えたことに伴う口腔ケアに関する時間への影響があるとの意見があった。

認知症グループホーム D では、看取りや ADL の重度の利用者に伴うベッド上での排泄・清拭・更衣が必要になったほか、全介助を行う利用者の割合が増えているとの意見があった。

特定施設入居者生活介護 E では、皮膚疾患に関連する介護行為の時間の増加、口腔体操や口腔ケアに関連する時間への影響があるとの意見があった。

図表 8 入浴・清潔保持・整容・更衣（大分類 1）関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	5	10
介護医療院 C	8	24
認知症グループホーム D	3	6
特定施設入居者生活介護 E	3	17

③移動・移乗・体位交換（大分類 2）関連

「移動・移乗・体位交換（大分類 2）関連」で最近 5 年間に変化があったとの回答は全部で 21 件に達した。

介護老人保健施設 B では、スライドボードやスライディングシートなどの補助具や介護用具を使用することで、移乗支援などの行為への負担が減っているとの意見があった。また、移乗支援に関連して、持ち上げない介護という考え方が広まってきたことも影響しているとの意見もあった。さらに、介護ロボットを利用することで、一人介助が可能になるとともに、利用者も安心できるといったことも起きているとの意見もあった。

介護医療院 C では、要介護度が高くなる傾向にあり、その結果、持ち上げない介護など新たな技術が求められるようになってきているほか、自立した利用者が少なくなることによって移乗介助が増加している、身体が大きい利用者が増えることにより介助の負担が増加している、といった意見があった。また、車いすの種類が増えることでそれぞれの車いすに対応した介助方法が求められるようになった、などの意見もあった。

認知症グループホーム D では、歩行機能の低いあるいは車いすの利用、看取りといった利用者の状態が依然と比較して変化することに伴い、全介助や両手引き、車いすの使用が増え、それに伴う移乗支援等の行為が増えたとの意見があった。

特定施設入居者生活介護 E では、利用者にあった福祉用具が用いられるようになることで、例えば起居動作の支援が容易になったとの意見があった。

図表 9 移動・移乗・体位交換（大分類2）関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	5	10
介護医療院 C	9	24
認知症グループホーム D	3	6
特定施設入居者生活介護 E	4	17

④食事（大分類3）関連

「食事（大分類3）関連」で最近5年間に変化があったとの回答は、全部で16件であった。

介護老人保健施設 B では、経口維持加算の関連で、水分とろみ付きで対応する利用者が増え、関連する業務が増えているとの意見があった。また、食事の状態の記録を、紙から電子に変更することにより、業務効率が上昇しているとの意見もあった。

介護医療院 C では、経口摂取をする利用者が増加することで、経口維持計画を作成する時間が増加したほか、経管栄養を望まない最期まで食べたいというニーズの利用者が増加することで、ペーストや補食（ゼリーや栄養補助食など）が増加し、そのための準備時間や誤飲の増加がみられるとの意見があった。

認知症グループホーム D では、利用者の嚥下力や歩行・下肢筋力の低下などにより、刻みやペースト食の増加や、配膳・下膳をできる利用者の減少、配食サービスの導入による変化があったとの意見があった。

特定施設入居者生活介護 E では、利用者の状態変化により、食事介助が増加したとの意見があった。

図表 10 食事（大分類3）関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	3	10
介護医療院 C	7	24
認知症グループホーム D	4	6
特定施設入居者生活介護 E	2	17

⑤排泄（大分類4）関連

「排泄(大分類4) 関連」で最近5年間に変化があったとの回答は、全部で6件であった。

介護老人保健施設 B では、排せつ支援加算の関連で、排泄介助における変化が起きているほか、排泄介助の記録を電子化することにより、職員間での情報共有を行いやすく

なっているとの意見があった。

介護医療院 C では、おむつ対応とセンサー対応が必要になっているとの意見があった。

認知症グループホーム D と、特定施設入居者生活介護 E では、変化ありの意見はなかった。

図表 11 排泄(大分類 4) 関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	4	10
介護医療院 C	2	24
認知症グループホーム D	0	6
特定施設入居者生活介護 E	0	17

⑥生活自立支援（大分類 5）関連

「生活自立支援（大分類 5）関連」で最近 5 年間に変化があったとの回答は、あわせて 6 件であった。

介護老人保健施設 B では、入所前後訪問指導加算の関連により、入所や退所の前後に、利用者宅への訪問に同行する業務が生じているとの意見があった。

介護医療院 C では、利用者の生活にあわせる考え方により、職員への負担が増えている面があるとの意見があった。また、自分らしく過ごせるようにといった考えに伴い、私物を持ち込む利用者が増えているものの、利用者自身で管理するのが難しく、そのチェック等を職員が行うことになってきているケースがあるとの意見があった。

認知症グループホーム D では、利用者の下肢筋力の低下により、これまで利用者が担当していた業務を行うことができなくなる影響があるとの意見があった。

特定施設入居者生活介護 E では、変化ありの意見はなかった。

図表 12 生活自立支援（大分類 5）関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	3	10
介護医療院 C	2	24
認知症グループホーム D	1	6
特定施設入居者生活介護 E	0	17

⑦社会生活支援（大分類 6）関連

「社会生活支援（大分類 6）関連」で最近 5 年間に変化があったとの回答は、あわせて 13 件であった。

介護老人保健施設 B では、介護記録の ICT 化による影響があるとの意見があった。

介護医療院 C では、利用者の QOL 向上のため積極的に外出の推進やイベントの開催を行っているとの意見があり、その関連の業務が増加していると考えられる。

認知症グループホーム D では、福祉車両の導入により、車いすの利用者も外出や旅行が可能になったとの意見があった。

特定施設入居者生活介護 E では、特に参考となる意見はなかった。

図表 13 社会生活支援（大分類 6）関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	1	10
介護医療院 C	6	24
認知症グループホーム D	4	6
特定施設入居者生活介護 E	2	17

⑧行動上の問題（大分類 7）関連

「行動上の問題（大分類 7）関連」で最近 5 年間に変化があったとの回答は、あわせて 13 件であった。

介護老人保健施設 B では、身体拘束廃止に伴う取り組みによる影響があるとの意見があった。

介護医療院 C では、認知症の利用者が増加することによる見守りや行動観察などの業務の増加、認知症状が出にくい環境づくりに関連した知識向上のための研修などの意見があった。また、見守りセンサーを導入して、利用者の安全管理を行うことによる影響があるとの意見もあった。

認知症グループホーム D では、介護老人保健施設 B と同様に、身体拘束廃止に伴う取り組みによる影響があるとの意見があった。

特定施設入居者生活介護 E では、認知症へのケア方法の変化に伴い、アセスメントの強化などの影響があるとの意見があった。

図表 14 行動上の問題（大分類 7）関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	1	10
介護医療院 C	7	24
認知症グループホーム D	4	6
特定施設入居者生活介護 E	1	17

⑨医療（大分類 8）関連

「医療（大分類 8）関連」で最近 5 年間に変化があったとの回答は、あわせて 5 件で

あった。

介護老人保健施設 B と介護医療院 C では、特に参考となる意見はなかった。

認知症グループホーム D では、緊急時の対応の見直しや AED 設置に関する勉強会などの変化があるとの意見があった。

特定施設入居者生活介護 E では、変化ありとの意見がなかった。

図表 15 医療（大分類 8）関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	1	10
介護医療院 C	1	24
認知症グループホーム D	3	6
特定施設入居者生活介護 E	0	17

⑩機能訓練（居室での機能訓練を含む）（大分類 9）関連

「機能訓練（居室での機能訓練を含む）（大分類 9）関連」で最近 5 年間に変化があったとの回答は、あわせて 5 件であった。

介護老人保健施設 B では、変化ありとの意見がなかった。

介護医療院 C では、リハビリテーション以外の日常生活に実施可能な動作を取り込むように、多職種との連携があるとの意見があった。

認知症グループホーム D では、医師や看護師との連携に関する意見があった。

特定施設入居者生活介護 E では、機能訓練の重要性への理解がたまる中で、機能訓練時間が増加しているとの意見があった。

図表 16 機能訓練（居室での機能訓練を含む）（大分類 9）関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	0	10
介護医療院 C	3	24
認知症グループホーム D	1	6
特定施設入居者生活介護 E	1	17

⑪対象者に直接関わらない業務：連絡調整（大分類 0）関連

「対象者に直接関わらない業務：連絡調整（大分類 0）関連」で最近 5 年間に変化があったとの回答は、あわせて 5 件であった。

介護老人保健施設 B では、介護記録ソフトの導入があったとの意見があった。

介護医療院 C では、電子カルテの導入による情報共有が行われるようになったとの意見があった。

認知症グループホーム D では、スマートフォンの導入により、全体への申し送りを一斉に行うようになったとの意見があった。

特定施設入居者生活介護 E では、変化ありの意見がなかった。

図表 17 対象者に直接関わらない業務：連絡調整（大分類 0）関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	1	10
介護医療院 C	2	24
認知症グループホーム D	2	6
特定施設入居者生活介護 E	0	17

⑫対象者に直接関わらない業務：記録・文書作成（大分類 0）関連

「対象者に直接関わらない業務：記録・文書作成（大分類 0）関連」で最近 5 年間に変化があったとの回答は、あわせて 16 件であった。

介護老人保健施設 B では、加算算定による記録や文書が増加する一方、電子化により、作成時間はむしろ短縮したとの意見があった。また、電子化により、情報収集の利便性の向上、他部署との連携がしやすくなったとの意見もあった。

介護医療院 C では、電子カルテの導入により、例えば、利用者の経過を把握することができるなどの状況が生じているとの意見があった。また、アセスメントの記入や課題の抽出などにも影響を与えているとの意見があった。

認知症グループホーム D では、マニュアル化により研修を実施しやすくなった、記録類の書式の見直し、簡素化が行われたとの意見があった。

特定施設入居者生活介護 E では、ICT 化、タブレットの導入による影響があるとの意見があった。

図表 18 対象者に直接関わらない業務：連絡調整（大分類 0）関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	4	10
介護医療院 C	8	24
認知症グループホーム D	2	6
特定施設入居者生活介護 E	2	17

⑬対象者に直接関わらない業務：入院(所)者の病棟等環境整備・掃除（大分類 0）関連

「対象者に直接関わらない業務：入院(所)者の病棟等環境整備・掃除（大分類 0）関連」で最近 5 年間に変化があったとの回答は、3 件であった。

いずれにおいても、参考とする意見はなかった。

図表 19 対象者に直接関わらない業務：入院(所)者の病棟等環境整備・掃除（大分類0）
関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	0	10
介護医療院 C	2	24
認知症グループホーム D	1	6
特定施設入居者生活介護 E	0	17

⑭対象者に直接関わらない業務：入院(院)者の物品管理(物品購入を含む)（大分類0）
関連

「対象者に直接関わらない業務：入院(院)者の物品管理(物品購入を含む)（大分類0）
関連」で最近5年間に変化があったとの回答は、1件であった。

介護老人保健施設 B、介護医療院 C、特定施設入居者生活介護 E では、変化ありとの意見がなかった。

認知症グループホーム D では、私物が増えているとの意見があり、その管理に関する業務に影響があると考えられる。

図表 20 対象者に直接関わらない業務：入院(院)者の物品管理(物品購入を含む)（大分類0）
関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	0	10
介護医療院 C	1	24
認知症グループホーム D	0	6
特定施設入居者生活介護 E	0	17

⑮対象者に直接関わらない業務：巡回、見渡し（大分類0）関連

「対象者に直接関わらない業務：巡回、見渡し（大分類0）関連」で最近5年間に変化があったとの回答は、10件であった。

介護老人保健施設 B では、見守りセンサーの導入により影響のほか、ICT 機器の導入によりパソコンに向かう時間が増えて、目視での見守り時間が減少したとの意見があった。また、センサーとモニターを設置することで、ナースコールへの対応方法が、これまでのすぐの訪問から、モニターで確認してから必要に応じて訪問するように変化が生じているとの意見もあった。

介護医療院 C では、拘束していないため見守りに関する業務が増えたほか、見守りセンサーを導入することにより安全管理のための訪問頻度が増えているケースがあるとの意見があった。

認知症グループホーム D では、夜間のトイレセンサーの導入があったとの意見があった。

特定施設入居者生活介護 E においても、見守りセンサーの導入の影響があり、職員の負担軽減が図られているとの意見があった。

図表 21 対象者に直接関わらない業務：巡回、見渡し（大分類 0）関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	4	10
介護医療院 C	2	24
認知症グループホーム D	1	6
特定施設入居者生活介護 E	3	17

⑩対象者に直接関わらない業務：職員に関すること（大分類 0）関連

「対象者に直接関わらない業務：職員に関すること（大分類 0）関連」で最近 5 年間に変化があったとの回答は、9 件であった。

介護老人保健施設 B では、ICT 機器を導入することにより情報共有がしやすくなったこと、こうしたことに伴い職員間の関りにも変化が生じているとの意見があった。

介護医療院 C では、医療や経管栄養の必要な利用者の増加、利用者のニーズの多様化などにより、職員に求められる知識や技術も多様化あるいは高度化してきている、との意見があった。

認知症グループホーム D では、介護未経験者、無資格者が増えているとの意見があった。

特定施設入居者生活介護 E では、特に参考とする意見はなかった。

図表 22 対象者に直接関わらない業務：職員に関すること（大分類 0）関連：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	2	10
介護医療院 C	5	24
認知症グループホーム D	1	6
特定施設入居者生活介護 E	1	17

⑪分類に当てはまらない行為

「分類に当てはまらない行為」に対する回答は、あわせて 2 件であった。
介護老人保健施設 B と介護医療院 C では、変化ありとの意見がなかった。

認知症グループホーム D では、業務のチェックリストの作成により、業務のやり方、時間に変化が出てきているとの意見があった。

特定施設入居者生活介護 E では、資格を取得した時期により、移乗介助の方法が変化してきているとの意見があった。

図表 23 分類に当てはまらない行為：変化有の回答

	変化有	回答数
介護老人保健施設 B	0	10
介護医療院 C	0	24
認知症グループホーム D	1	6
特定施設入居者生活介護 E	1	17

(3) タイムスタディ調査結果

タイムスタディ調査は、令和元年2月中旬に介護医療院Cを対象に実施した。調査対象利用者は4名で、自立、または車椅子での歩行が可能な利用者を選定した。調査は調査員による他記式で行われ、平日の7時から20時までの時間帯に調査対象利用者に対して行われる行為を1分ごとに記入した。また、利用者に対して行われる介護行為（直接業務）から、これまでのケアコード表等にかかわる内容等を抽出するため、ケアコード表のコードに当てはまりにくい行為に関しては、「その他」として介護行為が行われた際の利用者の状況等（居室、リビング等、ベッド上、歩行等）とその詳細を記述した上で、別途内容の分析を行った。

タイムスタディ調査の集計結果（利用者4名分の合計時間）、介護医療院C全体で一日中もっとも時間がかかっていたのは入浴の介助で194分、次いで食事の摂食の介助が125分、摂食の言葉による働きかけが112分、行事・クラブ活動の実施・評価・介助が105分であった。（事業所全体の合計のため、利用者一人当たりの時間に換算すると、それぞれ48.5分、31.25分、28分、26.25分である。また、調査当日は対象利用者全員が入浴を行った。）

その他に分類される行為については、主に「移動・移乗・体位変換—その他の体位変換」、「排泄」、「生活自立支援」、「医療」、「機能訓練（居室での機能訓練を含む）」と関連する行為が挙げられた。「移動・移乗・体位変換—その他の体位変換」に関しては、移乗ではない利用者の体位の変換、特に立っていた利用者をベッドや車椅子、椅子に座らせる行為が挙げられた。また、歩行器の片づけも現在のコードに当てはまらない行為として挙げられた。

「排泄」に関してはオムツとは別途使用している尿取りパッドの交換、「生活自立支援」では利用者の体温調整のための毛布やひざ掛けの使用が見られた。また、「医療」については痰と関連し、状況の確認や共有に関する行為、「機能訓練」では音楽を流す、または利用者との遊びなどの行為が見られた。

図表 24 タイムスタディ調査の集計結果（介護医療院C）

ケアコード						回数-時間				
3桁	大分類	2桁	中分類	1桁	小分類					
1	入浴・清潔 保持・整容・ 更衣	1	入浴 (主に浴室・脱衣所内での介助) ※洗身・洗髪・洗面を含む	1	準備	111	3			
				2	言葉による働きかけ	112	5			
				3	介助	113	194			
			2	清拭 (入浴時・排泄時を除く)	2	言葉による働きかけ	122	1		
					3	介助	123	1		
			4	洗面・手洗い (入浴時を除く) (排泄時を含む)	2	言葉による働きかけ	142	1		
					3	介助	143	5		
					4	見守り等	144	4		
		1			準備	151	7			
		5	口腔・耳ケア (入浴時を除く)	2	言葉による働きかけ	152	22			
				3	介助	153	31			
				4	見守り等	154	7			
				5	後始末	155	6			
				2	言葉による働きかけ	172	2			
		7	整容 (入浴後の頭髮のドライヤー乾燥を 含む)	3	介助	173	5			
				1	準備	181	1			
		8	更衣 ※浴室・脱衣所、トイレでの 更衣を除く	2	言葉による働きかけ	182	3			
				3	介助	183	21			
		2	移動・移乗・ 体位変換	1	敷地内の移動 (浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	1	準備	211	13	
						2	言葉による働きかけ	212	35	
						3	介助	213	77	
						5	後始末	215	4	
						1	準備	221	17	
				2	移乗 (浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	2	言葉による働きかけ	222	15	
3	介助					223	20			
5	後始末					225	7			
1	準備					241	1			
2	言葉による働きかけ					242	2			
4	起立			3	介助	243	11			
				1	準備	251	2			
				2	言葉による働きかけ	252	10			
5	その他の体位変換 (浴室内・脱衣所、トイレ内・起座・ 起立時を除く) (ギャッジベッドの操作を含む)			3	介助	253	27			
				5	後始末	255	2			
				9	その他	259	15			
				1	準備	341	32			
				2	言葉による働きかけ	342	112			
				3	介助	343	125			
				4	見守り等	344	8			
5	後始末	345	15							
4	排泄	1	排尿 (移乗・体位変換を含む) (浴室内を含む)	2	言葉による働きかけ	412	13			
				3	介助	413	24			
				4	見守り等	414	13			
				1	準備	421	1			
		2	排便 (おむつに係る介助を含む) (移乗・体位変換を含む) (浴室内を含む)	2	言葉による働きかけ	422	4			
				3	介助	423	25			
				5	後始末	425	2			
				9	その他	499	18			
				2	言葉による働きかけ	572	10			
		7	目覚まし、寝かしつけ	3	介助	573	11			
				5	後始末	575	3			
				1	挨拶・日常会話	591	76			
		9	相談・助言・指導を含む 会話、その他のコミュニケー ション	2	心理的支援・訴えの把握	592	5			
9	その他			509	2					
6	社会生活支 援	1	行事、クラブ活動	2	言葉による働きかけ	612	23			
				3	実施・評価・介助	613	105			
				4	見守り等	614	15			
				1	準備	811	1			
8	医療	1	薬剤の使用 (経口薬、坐薬の投薬、自己注射、 輸液、輸血など)	2	言葉による働きかけ	812	6			
				3	介助・実施	813	10			
				4	観察・見守り等	814	3			
				5	後始末	815	1			
				1	準備	821	6			
		2	呼吸器、循環器、消化器、 泌尿器にかかる処置 (吸引、吸入、排痰、経管栄養)	2	言葉による働きかけ	822	3			
				3	実施	823	11			
				4	観察・見守り等	824	1			
				5	後始末	825	3			
				2	言葉による働きかけ	832	3			
		3	運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉頭・ 歯科及び 手術にかかる処置 (牽引・固定温・冷電法など)	3	実施	833	6			
				2	言葉による働きかけ	842	4			
				3	実施	843	8			
		4	観察・測定・検査	2	誘いかけ・拒否時の説明	852	6			
				3	実施	853	5			
		5	指導・助言	2	誘いかけ・拒否時の説明	852	6			
				3	実施	853	5			
		9	その他	3	実施	899	2			
				9	その他	899	2			
		9	機能訓練 (居室での機 能訓練を含 む)	9	その他	9	その他	999	6	
0	対象者に直 接関わらな い業務					対象者に関すること	2	記録・文書作成	012	51
							3	入院(所)者の病棟等環境整 備・掃除(職員に関する場 所・病室(居室)内を除く)	013	21
							4	入院(院)者の物品管理 (物品購入を含む)	014	6

図表 25 タイムスタディ調査のうち、「その他」に分類された集計結果
(介護医療院 C)

ケアコード						回数=時間	内容	
3桁	大分類	2桁	中分類	1桁	小分類			コード
2	移動・移乗・体位変換	5	その他の体位変換 (浴室内・脱衣所、トイレ内・起座・起立時を除く) (ギャッジベッドの操作を含む)	9	その他	259	22	ベッドまわりのカーテンをしめる ベッドに座らせる 車椅子に座らせる 椅子に座らせる 歩行器の片づけ
4	排泄	9	その他	9	その他	499	18	尿とりパッド交換 パッドを含めおむつ交換の準備 ギャッジベッドの操作
5	生活自立支援	0	その他	9	その他	509	2	目薬介助 体温調節のために毛布をとる ひざかけをかける
8	医療	9	その他	9	その他	899	2	声を出させて痰がからんでないか確認 後で痰とろうねと誘いかけ
9	機能訓練 (居室での機能訓練を含む)	9	その他	9	その他	999	6	音楽を流す 髪をとかず、じゃんけんする

2.4 調査結果のまとめ

今回実施することができた事前ヒアリング調査、アンケート調査、タイムスタディ調査の結果を踏まえると、新たな介護行為など、介護行為の変化に影響を与えている要因とそれに伴う業務の変化について整理すると以下の通りである。

○社会的変化による介護ロボットやICT機器の導入による影響を受ける業務

社会的変化により、介護ロボットやICT機器などの導入が進んでいる。それらを導入するための研修を始め、機器の利活用に伴う業務、そこからさらに波及して生じる業務などに影響が及んでいる。

例：申し送りや他職種連携、情報共有への影響

介護ロボットやICT機器の導入のための研修に関する業務

様々な介護ロボットなどの介護用具を利用する業務

外出など、利用者の活動範囲が広がることによる業務 など

○様々な介護用具の使用が増えたことが影響する業務

様々な介護用具の種類が増えることによって、それぞれを適切に使いこなすことができようになるための知識等の取得、それら用具を使うための業務が新たに発生する。

例：介護用具の種類が増加するなかで、それぞれの適切な使い方に基づくケアの実施 など

○制度的変化に伴う影響を受ける業務

制度的変化に伴い、従来と比較して増加もしくは発生している業務がある。

例：口腔衛生管理体制加算に伴う口腔ケア

経口維持加算などに伴う利用者の状態に対応した食形態の多様化による食事関連のケア

入所前後訪問指導加算に伴う入所前後、退所前後における利用者宅への訪問 など

○看取りの増加に伴う影響

施設・事業所において看取りを行うことが増える中で、それらに関連する業務が増えている。

例：看取り機会の増加による見取りに関連する業務

○利用者の平均的な状態像の変化に伴う影響

施設・事業所の利用者の状態が、重度化するなどの影響により、業務が変化している。

例：ベッド上でのケアの増加

全介助の利用者の増加

車いすなどへの移乗支援の増加（車いす利用者などが増加）

吸引機を必要とする利用者の増加による口腔ケアの時間の増加

認知症利用者の増加による見守り等の時間の増加

認知症利用者の増加による認知症を踏まえたケアをするための知識等の向上、そのための研修等

など

○利用者の意向を重視する考え方の高まりに伴う影響

施設・事業所における運営の考え方の変化により、その考え方に関連する業務が増加あるいは生じる。

例：最期まで食べたいというニーズに対応するための多様な食形態を用いたケア

施設・事業所に持ち込む物品が増えることによる物品の管理関連の業務

など

○アウトソーシングの活用などによる施設・事業所で行う業務への影響

例えば配食サービスの活用などにより、これまで実施していた業務が変化するといったことが生じているケースがあることがわかった。

例：配食サービスのアウトソーシングによる該当する業務の減少

など

3. ICHI (International Classification of Health Interventions) とケアコードの比較

3.1 目的

国際保健機関 (World Health Organization) では健康に関する介入を報告・分析する共通のツールとして医療行為分類 (International Classification of Health Interventions、以下「ICHI」) のベータ第2版を2018年10月に公表し、2019年の1年を通して更なるテストを行っている。

ICHI では幅広い医療行為全般を対象としており、その内容は診断、医療、手術、精神、総合医 (プライマリーケア)、医師、歯科医師、そして薬剤師以外の医療者によるケア、機能支援、リハビリテーション、薬剤、公衆衛生を網羅している。¹

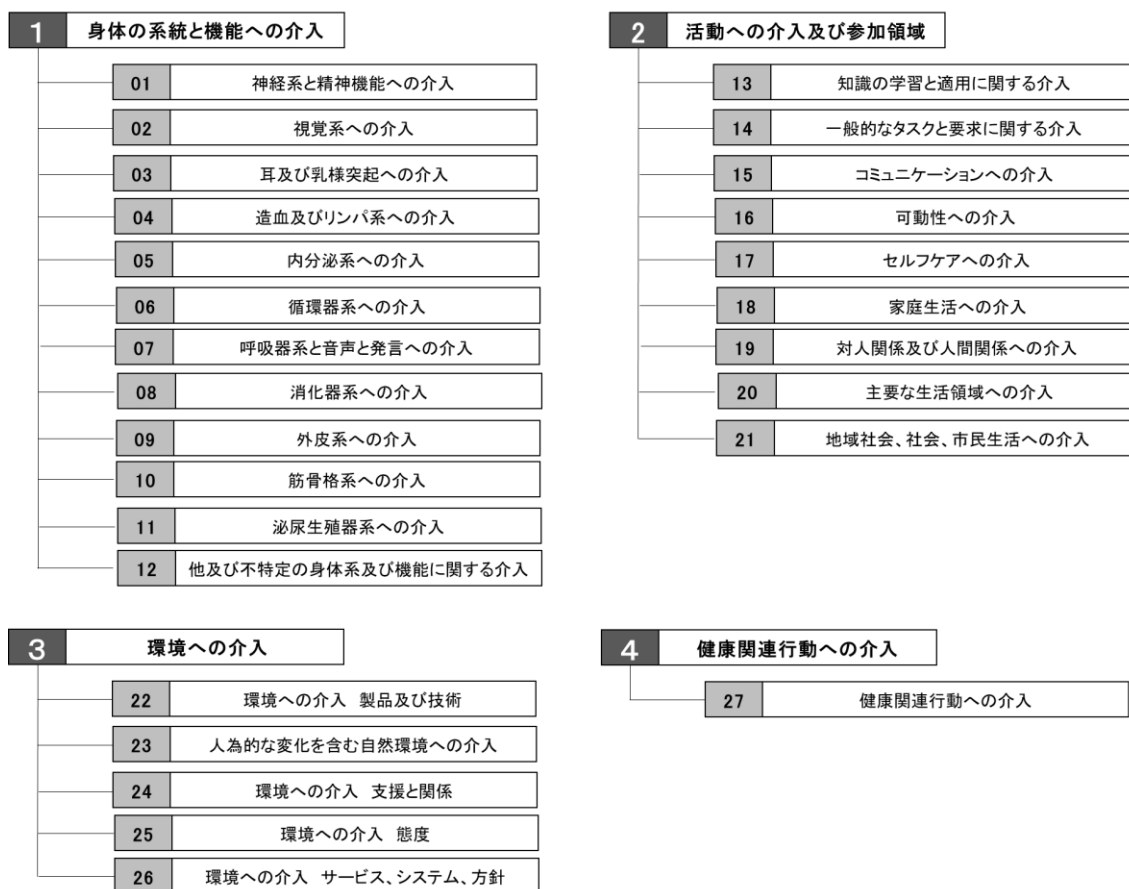
本調査では、既存のケアコードの参考となる ICHI を翻訳し、その分類とケアコードとの比較を行った。

3.2 ICHI (International Classification of Health Interventions) の概要

ICHI のコードは行為が行われる客体である「ターゲット (Target)」の3桁、主体から客体へ行われる「行為 (Action)」の2桁、行為が行われる過程や方法を示す「方法 (Means)」の2桁で構成される。そのうち、「ターゲット (Target)」の大分類は「身体の系統と機能への介入」、「活動への介入及び参加領域」、「環境への介入」、「健康関連行為への介入」の4種類に分類されるが、本調査ではケアコードに含まれている行為と比較するために、主には医療行為と密接な関連がある「身体の系統と機能への介入」以外の3つの大分類を中心に比較を行った。

¹ 出所：国際保健機関ホームページ (<https://www.who.int/classifications/ichi/en/>、閲覧：令和二年3月30日)

図表 26 ICHI の基本的な構造



図表 27 ケアコードの基本的な構造

大分類(100の位)	中分類(10の位)	小分類(1の位)
1 入浴・清潔保持・整容・更衣	(主にケアの目的)	1 準備
2 移動・移乗・体位変換		2 言葉による働きかけ
3 食事		3 介助
4 排泄		4 見守り等
5 生活自立支援		5 後始末
6 社会生活支援		9 その他
7 行動上の問題		※小分類ごとに選択肢は異なりますので注意して下さい。
8 医療		
9 機能訓練		
0 対象者に直接かわからない業務		

図表 28 ケアコード（大分類 1～9）における小分類の定義

小分類（1の位）	定義
1 準備	介助のための準備作業を指す。
2 言葉による働きかけ	介助を実施するために、対象者へ介助への協力を促す。声掛けにより、行動を促す。拒否された場合に、説明や説得を行う。などを指す。
3 介助（実施・対応）	対象者と相対して、介助を提供している状況を指す。介助の提供中に、対面で注視しながら待機・観察している場合も介助に含める。（例1；対1で食事介助中に、食べ物を飲み込むのを待って、次の食べ物を与えようとして観察している状況。）
4 見守り等	対象者と相対していない状態で、介助が必要かどうか対象者を観察している状況を指す。直接手の届かない距離から対象者を観察している。他の対象者の介助をしながら観察している。などを指す。
5 後始末	介助実施後の後片付けの作業を指す。

3.3 比較結果

ICHI とケアコードの比較を行った結果、主には2つ目の分類の「活動への介入及び参加領域」でケアコードと類似した項目が多くみられた。中分類レベルで ICHI のコードと関連があったケアコードは、「11 入浴」、「12 清拭」、「15 口腔・耳ケア」、「18 更衣」、「21 敷地内の移動」、「25 その他の体位変換」、「26 介助用具の着脱」、「31 調理」、「34 摂食」、「41 排尿」、「42 排便」、「59 相談・助言・指導を含む会話、その他のコミュニケーション」、「61 行事、クラブ活動」、「63 文書作成」、「65 外出時の移動」、「81 薬剤の使用」があった。

また、小分類に関しては ICHI の中分類によって構成に違いがあるものの、図表 29 の通り、観察と見守り、実践的な支援と介助、情緒的な支援と言葉による働きかけ等、部分的な一致が見られた。

一方、特にケアコードと関連が多かった2つ目の分類の「活動への介入及び参加領域」で現在のケアコードに含まれていない中分類のコードとしては、図表 31 の通り、利用者の学習や一般的なタスクと要求への介入、コミュニケーションの受け取り・生成、可動性への介入、セルフケア、家庭生活への介入、対人関係及び人間関係への介入、教育・仕事・雇用・経済生活等の主要な生活領域への介入、地域社会、社会、市民生活への介入等が挙げられた。

（医療行為については薬剤の使用を除き、図表 32 の通り、ICHI は身体部位ごとの介入として分類しているのに対し、ケアコードは身体部位別の処置と、具体的な行為（観察・測定・検査、指導・助言、病気の症状への対応）を分けている構造的な違いがあった。）

図表 29 基本的な比較方法（SMF 食事の場合）

ICHI		ケアコード	
コード	内容	小分類（1の位）	内容
SMF. AA. ZZ	食事の評価		
SMF. AB. ZZ	食事の測定		
SMF. AC. ZZ	食事のテスト		
SMF. AM. ZZ	食事の観察	4	見守り等
SMF. AN. ZZ	食事に関する面談		
SMF. PH. ZZ	食事のトレーニング		
SMF. PM. ZZ	食事に関する教育		
SMF. PN. ZZ	食事に関するアドバイス		
SMF. RB. ZZ	食事に関する実践的な支援	3	介助（実施・対応）
SMF. RC. ZZ	食事に関する情緒的な支援	2	言葉による働きかけ

図表 30 ICHI とケアコードの比較（ケアコード「8 医療」以外の介護行為全般）

ICHI	ケアコード			
	コード	大分類	中分類	小分類
2-活動への介入及び参加領域				
SE-コミュニケーション コミュニケーションを受ける	59	生活自立支援	相談・助言・指導を含む会話、その他のコミュニケーション	
SE1-コミュニケーション				
SE1.AA.ZZ-コミュニケーションの評価				
SE1.AC.ZZ-コミュニケーションのテスト				
SE1.AM.ZZ-コミュニケーションの観察				
SE1.PG.ZZ-コミュニケーションの支援または指導練習				
SE1.PH.ZZ-コミュニケーションのトレーニング				
SE1.PM.ZZ-コミュニケーションに関する教育				
SE1.PN.ZZ-コミュニケーションに関するアドバイス	594	生活自立支援	相談・助言・指導を含む会話、その他のコミュニケーション	生活指導
SE1.PP.ZZ-コミュニケーションに関するカウンセリング				
SE1.RA.ZZ-コミュニケーションタスクの実行	591	生活自立支援	相談・助言・指導を含む会話、その他のコミュニケーション	挨拶・日常会話
SE1.RB.ZZ-コミュニケーションに関する実践的な支援				
SE1.RC.ZZ-コミュニケーションに関する情緒的な支援	592	生活自立支援	相談・助言・指導を含む会話、その他のコミュニケーション	心理的支援・訴えの把握
SE1.TA.ZZ-コミュニケーションに関するアドボカシー				
SE1.ZY.ZZ-コミュニケーションに関するその他の介入(他に分類のないもの)				
SFK-メッセージの筆記	63	社会生活支援	文書作成(手紙を除く) (対象者が文書作成するのを介助)	
SFK.AA.ZZ-メッセージ筆記の評価				
SFK.AC.ZZ-メッセージ筆記のテスト				
SFK.AM.ZZ-メッセージ筆記の観察	634	社会生活支援	文書作成(手紙を除く) (対象者が文書作成するのを介助)	見守り等
SFK.PH.ZZ-メッセージ筆記のトレーニング				
SFK.PM.ZZ-メッセージの筆記に関する教育				
SFK.PN.ZZ-メッセージの筆記に関するアドバイス				
SFK.PP.ZZ-メッセージ筆記のカウンセリング				
SFK.RB.ZZ-メッセージの筆記に関する実践的な支援	633	社会生活支援	文書作成(手紙を除く) (対象者が文書作成するのを介助)	介助
SFK.RC.ZZ-メッセージ筆記の情緒的な支援	632	社会生活支援	文書作成(手紙を除く) (対象者が文書作成するのを介助)	言葉による働きかけ
SH2-体位の変更と維持	25	移動・移乗・体位変換	その他の体位変換(浴室内・脱衣所、トイレ内・起座・起立時を除く)(ギャッジベッドの操作を含む)	
SH2.AA.ZZ-体位の変更と維持の評価				
SH2.AC.ZZ-体位の変更と維持のテスト				
SH2.AM.ZZ-体位の変更と維持の観察	252	移動・移乗・体位変換	その他の体位変換(浴室内・脱衣所、トイレ内・起座・起立時を除く)(ギャッジベッドの操作を含む)	見守り等
SH2.PH.ZZ-体位の変更と維持のトレーニング				
SH2.PM.ZZ-体位の変更と維持に関する教育				
SH2.RA.ZZ-体位の変更と維持に関するタスクの実行				
SH2.RB.ZZ-体位の変更と維持に関する実践的な支援	253	移動・移乗・体位変換	その他の体位変換(浴室内・脱衣所、トイレ内・起座・起立時を除く)(ギャッジベッドの操作を含む)	介助
SH2.RC.ZZ-体位の変更と維持に関する情緒的な支援	254	移動・移乗・体位変換	その他の体位変換(浴室内・脱衣所、トイレ内・起座・起立時を除く)(ギャッジベッドの操作を含む)	言葉による働きかけ
SHA-基本的な体位の変更	2	移動・移乗・体位変換	その他の体位変換(浴室内・脱衣所、トイレ内・起座・起立時を除く)(ギャッジベッドの操作を含む)	
SHA.AA.ZZ-体位の変更の評価				
SHA.AC.ZZ-体位の変更のテスト				
SHA.AM.ZZ-体位の変更の観察	252	移動・移乗・体位変換	その他の体位変換(浴室内・脱衣所、トイレ内・起座・起立時を除く)(ギャッジベッドの操作を含む)	見守り等
SHA.PH.ZZ-体位変更のトレーニング				
SHA.PM.ZZ-体位の変更に関する教育				
SHA.PN.ZZ-体位の変更に関するアドバイス				
SHA.RA.ZZ-体位の変更タスクの実行				
SHA.RB.ZZ-体位の変更に関する実践的な支援	253	移動・移乗・体位変換	その他の体位変換(浴室内・脱衣所、トイレ内・起座・起立時を除く)(ギャッジベッドの操作を含む)	介助
SHA.RC.ZZ-体位の変更に関する情緒的な支援	254	移動・移乗・体位変換	その他の体位変換(浴室内・脱衣所、トイレ内・起座・起立時を除く)(ギャッジベッドの操作を含む)	言葉による働きかけ
SHD-体位の維持				
SHD.AA.ZZ-体位維持の評価				
SHD.AC.ZZ-体位維持のテスト				
SHD.AM.ZZ-体位維持の観察				
SHD.PG.ZZ-体位を維持するためのバランス練習の補助及び指導				
SHD.PH.ZZ-体位維持のトレーニング				
SHD.PN.ZZ-体位の維持に関するアドバイス				
SHD.RB.ZZ-体位維持に関する実践的な支援				
SHD.RC.ZZ-体位維持に関する情緒的な支援				

ICHI	ケアコード			
	コード	大分類	中分類	小分類
SHG-自発的移動	21	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	
SHG.AA.ZZ-自発的移動の評価				
SHG.AC.ZZ-自発的移動のテスト				
SHG.AM.ZZ-自発的移動の観察				
SHG.PH.ZZ-自発的移動のトレーニング				
SHG.PM.ZZ-自発的移動に関する教育				
SHG.PN.ZZ-自発的移動に関するアドバイス	212	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	言葉による働きかけ
SHG.RA.ZZ-人を移動させるタスクの実行				
SHG.RB.ZZ-自発的移動に関する実践的な支援	213	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	介助
SHG.RC.ZZ-自発的移動に関する情緒的な支援	214	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	見守り等
SJ2-歩行と移動	21	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	
SJ2.AA.ZZ-歩行と移動の評価				
SJ2.AC.ZZ-歩行と移動のテスト				
SJ2.AM.ZZ-歩行と移動の観察				
SJ2.PH.ZZ-歩行と移動のトレーニング				
SJ2.PM.ZZ-歩行と移動に関する教育				
SJ2.PN.ZZ-徒歩と移動に関するアドバイス	212	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	言葉による働きかけ
SJ2.RB.ZZ-徒歩と移動に関する実践的な支援	213	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	介助
SJ2.RC.ZZ-歩行と移動の情緒的な支援	214	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	見守り等
SJA-歩行	21	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	
SJA.AA.ZZ-歩行の評価				
SJA.AC.ZZ-歩行テスト				
SJA.AM.ZZ-歩行の観察				
SJA.PH.ZZ-歩行のトレーニング				
SJA.PM.ZZ-歩行に関する教育				
SJA.PN.ZZ-歩行に関するアドバイス	212	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	言葉による働きかけ
SJA.RB.ZZ-歩行に関する実践的な支援	213	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	介助
SJA.RC.ZZ-歩行に関する情緒的な支援	214	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	見守り等
SJB-階段昇降	21	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	
SJB.AA.ZZ-階段昇降の評価				
SJB.AC.ZZ-階段昇降テスト				
SJB.AM.ZZ-階段昇降の観察				
SJB.PH.ZZ-階段昇降トレーニング				
SJB.PM.ZZ-階段の昇降に関する教育				
SJB.PN.ZZ-階段の昇降についてのアドバイス	212	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	言葉による働きかけ
SJB.RB.ZZ-階段の昇降に関する実践的な支援	213	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	介助
SJB.RC.ZZ-階段昇降に関する情緒的な支援	214	移動・移乗・体位変換	敷地内の移動(浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	見守り等
SJG-さまざまな場所での移動	65	社会生活支援	外出時の移動	
SJG.AA.ZZ-さまざまな場所での移動の評価				
SJG.AM.ZZ-さまざまな場所での移動の観察				
SJG.PH.ZZ-さまざまな場所での移動のトレーニング				
SJG.PM.ZZ-さまざまな場所での移動に関する教育				
SJG.PN.ZZ-さまざまな場所での移動に関するアドバイス	652	社会生活支援	外出時の移動	言葉による働きかけ
SJG.RA.ZZ-さまざまな場所を移動するタスクの実行				
SJG.RB.ZZ-さまざまな場所での移動に関する実践的な支援	653	社会生活支援	外出時の移動	介助
SJG.RC.ZZ-さまざまな場所での移動に関する情緒的な支援	654	社会生活支援	外出時の移動	見守り等
SJJ-機器を使用した移動	26	移動・移乗・体位変換	介助用具の着脱	
SJJ.AA.ZZ-機器を使用した移動の評価				
SJJ.AM.ZZ-機器を使用した移動の観察	264	移動・移乗・体位変換	介助用具の着脱	見守り等
SJJ.PH.ZZ-機器を使用した移動のトレーニング				
SJJ.PM.ZZ-機器を使用した移動に関する教育				
SJJ.PN.ZZ-機器を使用した移動に関するアドバイス	26	移動・移乗・体位変換	介助用具の着脱	言葉による働きかけ
SJJ.RB.ZZ-機器を使用した移動に関する実践的な支援	263	移動・移乗・体位変換	介助用具の着脱	介助
SMB-自身の身体を洗うこと	11	入浴・清潔保持・整容・更衣	入浴(主に浴室・脱衣所内での介助)	
SMB.AA.ZZ-自身の身体を洗うことの評価				
SMB.AC.ZZ-自身の身体を洗うことテスト				
SMB.AM.ZZ-自身の身体を洗うこと観察				
SMB.AN.ZZ-自身の身体を洗うことに関する面談				
SMB.PH.ZZ-自身の身体を洗うことトレーニング				
SMB.PM.ZZ-自身の身体を洗うことに関する教育				
SMB.PN.ZZ-自身の身体を洗うことに関するアドバイス	112	入浴・清潔保持・整容・更衣	入浴(主に浴室・脱衣所内での介助)	言葉による働きかけ
SMB.RA.ZZ-自身の身体を洗うタスクの実行				
SMB.RB.ZZ-自身の身体を洗うことに関する実践的な支援	113	入浴・清潔保持・整容・更衣	入浴(主に浴室・脱衣所内での介助)	介助
SMB.RC.ZZ-自身の身体を洗うことに関する情緒的な支援	114	入浴・清潔保持・整容・更衣	入浴(主に浴室・脱衣所内での介助)	見守り等

ICHI	ケアコード			
	コード	大分類	中分類	小分類
SMC-身体部分のケア	12	入浴・清潔保持・整容・更衣	清拭(入浴時・排泄時を除く)	
SMC.AA.ZZ-身体部分のケアの評価				
SMC.AC.ZZ-身体部分のケアのテスト				
SMC.AM.ZZ-身体部分のケアの観察				
SMC.AN.ZZ-身体部分のケアに関する面談				
SMC.PH.ZZ-身体部分のケアのトレーニング				
SMC.PM.ZZ-身体部分のケアに関する教育				
SMC.PN.ZZ-身体部分のケアに関するアドバイス	122	入浴・清潔保持・整容・更衣	清拭(入浴時・排泄時を除く)	言葉による働きかけ
SMC.PP.ZZ-身体部分のケアに関するカウンセリング				
SMC.RA.ZZ-身体部分のケアに関するタスクの実行				
SMC.RB.ZZ-身体部分のケアに関する実践的な支援	122	入浴・清潔保持・整容・更衣	清拭(入浴時・排泄時を除く)	介助
SMC.RC.ZZ-身体部分のケアに関する情緒的な支援	122	入浴・清潔保持・整容・更衣	清拭(入浴時・排泄時を除く)	見守り等
SMD-トイレ使用	4	排泄		
SMD.AA.ZZ-トイレ使用の評価				
SMD.AC.ZZ-トイレ使用のテスト				
SMD.AM.ZZ-トイレ使用の観察				
SMD.PH.ZZ-トイレ使用のトレーニング				
SMD.PM.ZZ-トイレ使用に関する教育				
SMD.PN.ZZ-トイレ使用に関するアドバイス	412, 422	排泄	排尿、排便	言葉による働きかけ
SMD.RA.ZZ-トイレ使用に関するタスクの実行				
SMD.RB.ZZ-トイレ使用の実践的な支援	413, 423	排泄	排尿、排便	介助
SMD.RC.ZZ-トイレ使用の情緒的な支援	413, 423	排泄	排尿、排便	見守り等
SME-着衣	18	入浴・清潔保持・整容・更衣	更衣※浴室・脱衣所、トイレでの更衣を除く	
SME.AA.ZZ-着衣の評価				
SME.AC.ZZ-着衣のテスト				
SME.AM.ZZ-着衣の観察				
SME.AN.ZZ-着衣の関係についての面談				
SME.PH.ZZ-着衣のトレーニング				
SME.PM.ZZ-着衣に関する教育				
SME.PN.ZZ-着衣に関するアドバイス	182	入浴・清潔保持・整容・更衣	更衣※浴室・脱衣所、トイレでの更衣を除く	言葉による働きかけ
SME.PP.ZZ-着衣に関するカウンセリング				
SME.RA.ZZ-他人の着衣	183	入浴・清潔保持・整容・更衣	更衣※浴室・脱衣所、トイレでの更衣を除く	介助
SME.RB.ZZ-着衣に関する実践的な支援	183	入浴・清潔保持・整容・更衣	更衣※浴室・脱衣所、トイレでの更衣を除く	介助
SME.RC.ZZ-着衣に関する情緒的な支援	184	入浴・清潔保持・整容・更衣	更衣※浴室・脱衣所、トイレでの更衣を除く	見守り等
SMF-食事	34	食事	摂食	
SMF.AA.ZZ-食事の評価				
SMF.AB.ZZ-食事の測定				
SMF.AC.ZZ-食事のテスト				
SMF.AM.ZZ-食事の観察				
SMF.AN.ZZ-食事に関する面談				
SMF.PH.ZZ-食事のトレーニング				
SMF.PM.ZZ-食事に関する教育				
SMF.PN.ZZ-食事に関するアドバイス	342	食事	摂食	言葉による働きかけ
SMF.RB.ZZ-食事に関する実践的な支援	343	食事	摂食	介助
SMF.RC.ZZ-食事に関する情緒的な支援	344	食事	摂食	見守り等
SOA-食事の準備	31	食事	調理(対象者が調理するのを介助)	
SOA.AA.ZZ-食事の準備の評価				
SOA.AC.ZZ-食事の準備のテスト				
SOA.AM.ZZ-食事の準備の観察				
SOA.AN.ZZ-食事の準備に関する面談				
SOA.PH.ZZ-食事の準備のトレーニング				
SOA.PM.ZZ-食事の準備に関する教育				
SOA.PN.ZZ-食事の準備に関するアドバイス	312	食事	調理(対象者が調理するのを介助)	言葉による働きかけ
SOA.PP.ZZ-食事の準備に関するカウンセリング				
SOA.RA.ZZ-食事の準備タスクの実行				
SOA.RB.ZZ-食事の準備に関する実践的な支援	313	食事	調理(対象者が調理するのを介助)	介助
SOA.RC.ZZ-食事の準備に関する情緒的な支援	314	食事	調理(対象者が調理するのを介助)	見守り等
SXC-レクリエーション及びレジャー	61	社会生活支援	行事、クラブ活動	
SXC.AA.ZZ-レクリエーション及びレジャーへの従事の評価				
SXC.AC.ZZ-レクリエーション及びレジャーへの従事のテスト				
SXC.AM.ZZ-レクリエーション及びレジャーへの従事の観察				
SXC.PH.ZZ-レクリエーション及びレジャーへの従事に関するトレーニング				
SXC.PM.ZZ-レクリエーション及びレジャーへの従事に関する教育				
SXC.PN.ZZ-レクリエーション及びレジャーへの従事に関するアドバイス				
SXC.PP.ZZ-レクリエーション及びレジャーへの従事に関するカウンセリング				
SXC.RB.ZZ-レクリエーション及びレジャーへの従事に関する実践的な支援	613	社会生活支援	行事、クラブ活動	実施・評価・介助
SXC.RC.ZZ-レクリエーション及びレジャーへの従事に関する情緒的な支援	612	社会生活支援	行事、クラブ活動	言葉による働きかけ
SXC.TA.ZZ-レクリエーション及びレジャーへの従事に関するアドボカシー				

ICHI	ケアコード			
	コード	大分類	中分類	小分類
3-環境への介入				
UAC-薬品	81	医療	薬剤の使用	
UAC.AA.ZZ-薬品の使用の評価				
UAC.PM.ZZ-薬品の使用に関する教育				
UAC.PN.ZZ-薬品の使用に関するアドバイス	812	医療	薬剤の使用	言葉による働きかけ
UAC.RB.ZZ-薬品の使用に関する実践的な支援	813	医療	薬剤の使用	介助・実施
UAC.RC.ZZ-薬品の使用に関する情緒的な支援	814	医療	薬剤の使用	観察・見守り等
UAC.VF.ZZ-薬品の使用に関する健康上の警告				
UAD-日常生活での個人的な使用を目的とする製品及び技術				
UAD.AA.ZZ-日常生活での個人的な使用を目的とする製品及び技術の評価				
UAD.DP.ZZ-日常生活での個人的な使用を目的とする補助製品の設置				
UAD.KB.ZZ-日常生活での個人的な使用を目的とする製品及び技術の変更				
UAD.PH.ZZ-日常生活での個人的な使用を目的とする製品及び技術の使用に関するトレーニング				
UAD.PJ.ZZ-日常生活での個人的な使用を目的とする製品及び技術による体調不良				
UAD.PM.ZZ-日常生活での個人的な使用を目的とする製品及び技術に関する教育				
UAD.PN.ZZ-日常生活での個人的な使用を目的とする製品及び技術に関するアドバイス				
UAD.RB.ZZ-日常生活での個人的な使用を目的とする製品及び技術に関する実践的な支援				
UAD.RD.ZZ-日常生活での個人的な使用を目的とする製品及び技術の提供				
UAD.SJ.ZZ-日常生活での個人的な使用を目的とする製品及び技術の製造				
UAD.SM.ZZ-日常生活での個人的な使用を目的とする製品及び技術の管理				
UAD.SO.ZZ-日常生活での個人的な使用を目的とする補助製品の除去				
UAD.TL.ZZ-日常生活での個人的な使用を目的とする製品及び技術の処方				
4-健康関連行動への介入				
VEE-口腔衛生行動	15	入浴・清潔保持・整容・更衣	口腔・耳ケア (入浴時を除く)	
VEE.AA.ZZ-口腔衛生行動の評価				
VEE.AC.ZZ-口腔衛生行動のテスト				
VEE.PH.ZZ-口腔衛生行動に影響を与えるトレーニング				
VEE.PM.ZZ-口腔衛生行動に影響を与える教育				
VEE.PN.ZZ-口腔衛生行動に関するアドバイス				
VEE.RD.ZZ-口腔衛生行動の改善を支援する製品の提供				
VEE.TA.ZZ-口腔衛生行動に関するアドボカシー				
VEE.TD.ZZ-口腔衛生行動に関する協力関係または提携関係の構築				
VEE.TM.ZZ-口腔衛生行動に影響を与える環境の改変				
VEE.VA.ZZ-口腔衛生行動を対象とした能力向上の介入				
VEE.VB.ZZ-口腔衛生行動に影響を与える意識向上				
VEE.VC.ZZ-口腔衛生行動に関する公衆衛生診査				
VEE.WG.ZZ-口腔衛生に関する健康行動の改善を促す非経済的インセンティブ				
VEE.WJ.ZZ-口腔衛生行動に関する方針の変更				
VEE.ZY.ZZ-口腔衛生行動を対象としたその他の介入(他に分類のないもの)				

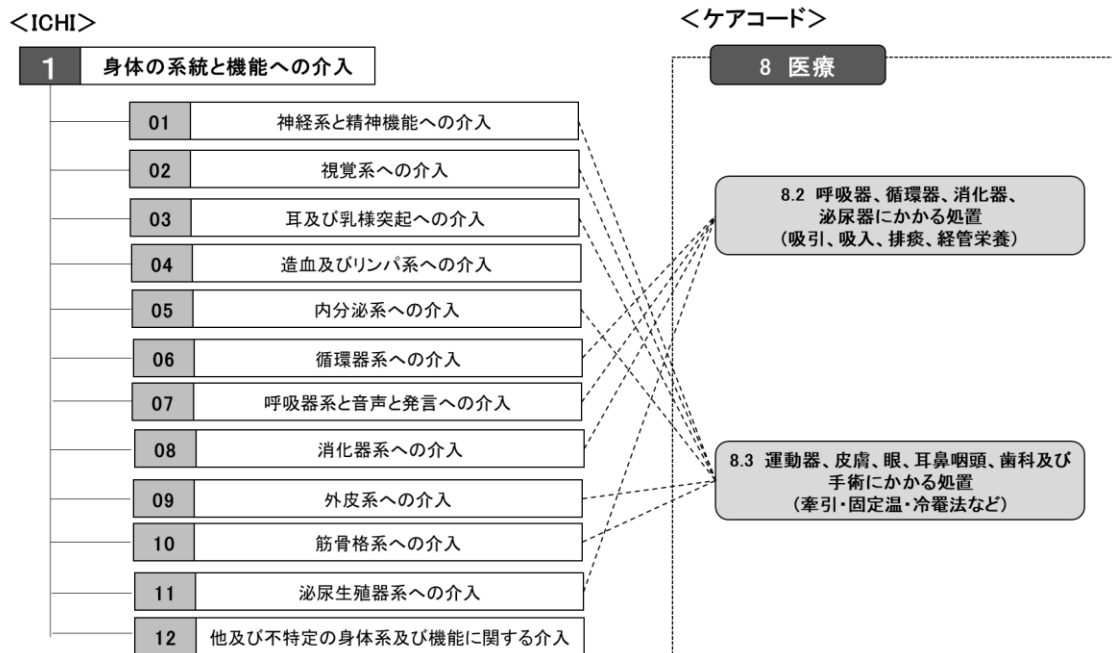
図表 31 ICHI の「活動への介入及び参加領域」のうち、現在のケアコードに含まれていない中分類のコード

13-知識の学習と適用に関する介入	
	SA-知識の学習と適用、意図的な感覚体験
	SA1-知識の学習と適用
	SA2-意図的な感覚体験
	SAA-視聴
	SAD-リスニング
	SAE-意図的な知覚
	SB-基本的な学習
	SB2-基本的な学習
	SBA-コピー
	SBB-物体を使用したアクションに関する学習
	SBC-言語の習得
	SBD-追加的な言語の習得
	SBF-予行練習
	SBG-概念の習得
	SBH-情報の入手
	SBI-読み方を学ぶ
	SBL-書き方の学習
	SBN-計算の学習
	SBQ-技能の習得
	SC-知識の適用
	SC2-知識の適用
	SCA-集中力
	SCC-思考
	SCF-読み取り
	SCG-書き取り
	SCI-計算
	SCJ-問題の解決
	SCL-意思決定
14-一般的なタスクと要求に関する介入	
	SD-一般的なタスクと要求
	SD1-一般的なタスクと要求
	SDA-タスクの実施
	SDG-日課の実行
	SDJ-ストレスやその他の心理的要求への対処
15-コミュニケーションへの介入	
	SE2-コミュニケーション-受ける
	SEA-相手とのコミュニケーション-音声メッセージの受け取り
	SEB-非発話音声表現
	SEC-歌唱
	SED-相手とのコミュニケーション-非言語メッセージの受け取り
	SEG-相手とのコミュニケーション-手話メッセージの受け取り
	SEJ-相手とのコミュニケーション-書き言葉に関するメッセージの受け取り
	SF-コミュニケーションの生成
	SF2-コミュニケーション-生成
	SFA-発話
	SFD-非言語メッセージの生成
	SFJ-正式な手話に関するメッセージの生成
	SG-会話とコミュニケーションデバイス及び技術の使用
	SG2-会話とコミュニケーションデバイス及び技術の使用
	SGA-会話
	SGD-ディスカッション
	SGG-コミュニケーション機器及び技術の使用

16-可動性への介入	
	SH-可動性; 体位の変更と維持
	SH1-可動性
	SIA-物体の持ち上げと運搬
	SID-下肢による物体の移動
	SIG-繊細な手の使用
	SIJ-手と腕の使用
	SIK-繊細な足の使用
	SJ-歩行と移動
	SJD-周囲の移動
	SK-輸送機関を使用した移動
	SK2-輸送機関を使用した移動
	SKA-乗客としての輸送機関の使用
	SKD-運転
	SKG-輸送目的での動物の使用
17-セルフケアへの介入	
	SM-セルフケア
	SM1-セルフケア
	SMG-飲酒
	SMH-健康管理
18-家庭生活への介入	
	SN-家庭生活; 必需品の取得
	SN1-家庭生活
	SN2-必需品の取得
	SNC-居住地の取得
	SND-商品及びサービスの入手
	SO-家事
	SO2-家事
	SOD-家内作業
	SP-家庭用品の手入れと他者に対する補助
	SP2-家庭用品の手入れと他者に対する補助
	SPA-家庭用品の手入れ
	SPD-他者に対する補助
19-対人関係及び人間関係への介入	
	SR-対人関係及び関係性 一般的な対人関係の形成
	SR1-対人関係及び関係性
	SR2-一般的な対人関係の形成
	SRC-基本的な対人関係の形成の形成
	SRD-複雑な対人関係
	SS-特定の対人関係
	SS2-特定の対人関係
	SSA-他人との関係性
	SSD-公式な関係性
	SSG-非公式の社会的関係
	SSJ-家族関係
	SSK-親子関係
	SSM-親密な関係

20-主要な生活領域への介入	
	ST-主要な生活領域 教育
	ST1-主要な生活分野
	ST2-教育
	STC-非公式教育
	STD-就学前教育
	STE-学校教育
	STF-職業訓練
	STG-高等教育
	STJ-教育生活
	SU-仕事と雇用
	SU2-仕事と雇用
	SUA-見習い
	SUD-職業の習得、維持、終了
	SUG-報酬のある雇用
	SUJ-報酬のない雇用
	SV-経済生活
	SV2-経済生活
	SVA-基本的な経済取引
	SVD-複雑な経済取引
	SVG-経済的自給自足
21-地域社会、社会、市民生活への介入	
	SX-地域社会、社会、市民生活
	SX1-地域社会、社会、市民生活
	SXB-地域社会での生活
	SXD-遊び
	SXH-宗教と精神文化
	SXK-人権
	SXL-政治生活と市民権

図表 32 ICHI とケアコードの比較（ケアコード「8 医療」の場合）



参考資料

参考資料：職員向けアンケート調査票

介護行為の変化に関する職員アンケート調査票

本アンケートの目的は、厚生労働省の令和元年度老人保健健康増進等事業「科学的介護データの分析に資する介護行為の実態把握に係る調査研究事業」に基づき、介護技術の向上や支援機器の充実等に伴い、高齢者に提供される介護行為の内容の変化を把握することです。ご多忙中、恐れ入りますが、アンケートへの協力をお願いいたします。

なお、このアンケートは上記事業における調査を目的としており、別の目的での利用や回答者本人の業務内容・スキルの測定・評価に用いることはありません。

問1. はじめに、あなたのことについて、お聞かせください。

①	年齢	_____歳代
②	経験年数（介護現場、または高齢者ケアの経験年数）	約 ____ 年
③	現在の職種（当てはまるものに○）	介護職、看護職、リハビリテーション職、生活相談員・支援相談員 その他（ ）

問2. 最近5年間で、あなたの身の回りで提供される介護行為について、提供する回数や時間、行為の内容（やり方）や考え方などが変化したと感ずることについて、その内容を簡単にご回答ください。自分が直接関与しなかった行為でも構いません。

※「新たなケアが加わり業務の比率が変化した」「記録の作成等の比率が増えた」等々、どのような内容でも構いません。

※役職の変化やスキルアップによる「個人に起因する介護行為の変化」は含みません。

【補】「上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット（ある場合のみご回答ください）」について

・ 貴施設の介護行為を変化させたとお感じになる機器・道具をお答えください。貴施設での呼び名をご記入いただいても構いませんが、製品名等をご存知でしたら併せてご回答ください。

・ 新製品でも改良品でも構いません。職員が利用するもの、入所者（高齢者）が利用するもの、どちらでも構いません。

・ 以前導入されていたが、その後使わなくなった（導入していた時には介護行為を変化させていた）機器・道具についてもご回答ください。

【想定される機器・道具】： これら是一例です。これらに限るものではありません。

「ICT機器」：介護記録、情報共有、請求業務に用いる介護ソフト、またはタブレット、インカム等の機器。

「介護ロボット」：日常生活支援における、移乗介護、移動支援、排泄支援、見守り、入浴支援などの場面で使用されるロボット機器。

「センサー」：見守り支援機器として用いるマットセンサー、赤外線センサー、等の機器。

「インカム」：小型マイクとヘッドホンのセットで、無線で施設内の職員相互あるいは職員全体に連絡ができる機器。

(1) **入浴・清潔保持・整容・更衣（大分類1）関連**

■この分類には以下の行為が含まれます。以下に含まれない行為がございましたら、ご記入ください。

入浴、清拭、洗髪、洗面・手洗い、口腔・耳ケア、月経への対処、整容、更衣

■この分類と関連して直近では、以下のような介護施設を対象にした報酬改定がございました。関連して新しく行うようになった、または増加した行為がございましたら、ご記入ください。

- ・褥瘡マネジメント加算の新設：褥瘡ケア計画の作成・見直し、褥瘡管理の実施
- ・口腔衛生管理加算の強化：歯科医師の指示を受けた歯科衛生士の月2回以上の口腔ケア

①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②～④-1もご記入ください) 2. 変化を感じなかった
②利用者の状況・状態	
③介護内容の変化	
④変化の要因	
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

(2) **移動・移乗・体位交換（大分類2）関連**

■この分類には以下の行為が含まれます。以下に含まれない行為がございましたら、ご記入ください。

敷地内の移動、移乗、起座、起立、その他の体位変換、介助用具の着脱

①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②～④-1もご記入ください) 2. 変化を感じなかった
②利用者の状況・状態	
③介護内容の変化	
④変化の要因	
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

(3)

食事（大分類3）関連

■この分類には以下の行為が含まれます。以下に含まれない行為がございましたら、ご記入ください。

調理、配膳・下膳、食器洗浄・食器の片づけ、摂食、水分摂取

■この分類と関連して直近では、以下のような介護施設を対象にした報酬改定がございました。関連して新しく行うようになった、または増加した行為がございましたら、ご記入ください。

- ・経口維持加算の見直し：栄養管理の会議の設置・運営、経口維持計画の作成
- ・療養食加算の見直し：管理栄養士又は栄養士による食事の提供の管理
- ・経口移行加算の見直し：経口移行計画の作成、管理栄養士又は栄養士による栄養管理、言語聴覚士又は看護職員の支援
- ・栄養スクリーニング加算の新設：栄養状態の確認、栄養状態に係る情報の文書の提供
- ・低栄養リスク改善加算の新設：入所者の栄養状態に関する会議の開催、栄養管理方法等を示した計画の作成、栄養管理の実施
- ・再入所時栄養連携加算の新設：栄養ケア計画の原案の作成
- ・栄養マネジメント加算の要件の緩和：管理栄養士による継続的な入所者ごとの栄養管理の実施

①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②～④-1もご記入ください)
	2. 変化を感じなかった
②利用者の状況・状態	
③介護内容の変化	
④変化の要因	
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

(4) **排泄(大分類4) 関連**

■この分類には以下の行為が含まれます。以下に含まれない行為がございましたら、ご記入ください。

排尿、排便

■この分類と関連して直近では、以下のような介護施設を対象にした報酬改定がございました。関連して新しく行うようになった、または増加した行為がございましたら、ご記入ください。

・排せつ支援加算の新設：排泄にかかる支援計画の作成、排泄支援の実施

①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②~④-1もご記入ください) 2. 変化を感じなかった
②利用者の状況・状態	
③介護内容の変化	
④変化の要因	
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

(5) **生活自立支援(大分類5) 関連**

■この分類には以下の行為が含まれます。以下に含まれない行為がございましたら、ご記入ください。

洗濯、清掃・ごみの処理、整理整頓、食べ物の管理、金銭管理、戸締まり・火の始末・防災、目覚まし・寝かしつけ、その他の日常生活(集う・テレビを見る・読書をする・たばこを吸うなど)、相談・助言・指導を含む会話・その他のコミュニケーション

■この分類と関連して直近では、以下のような介護施設を対象にした報酬改定がございました。関連して新しく行うようになった、または増加した行為がございましたら、ご記入ください。

・入所前後訪問指導加算の新設：退所前後の入所者宅への訪問

・在宅・入所相互利用加算の新設：在宅での生活期間中のケアマネージャーとの情報交換

①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②~④-1もご記入ください) 2. 変化を感じなかった
②利用者の状況・状態	
③介護内容の変化	
④変化の要因	
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

(6) **社会生活支援（大分類6）関連**

■この分類には以下の行為が含まれます。以下に含まれない行為がございましたら、ご記入ください。

行事・クラブ活動、電話・FAX・E-mail・手紙、文書作成、来訪者への対応、外出時の移動、外出先での行為、職能訓練・生産活動、社会生活訓練

①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②～④-1もご記入ください) 2. 変化を感じなかった
②利用者の状況・状態	
③介護内容の変化	
④変化の要因	
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

(7) **行動上の問題（大分類7）関連**

■この分類には以下の行為が含まれます。以下に含まれない行為がございましたら、ご記入ください。

行為上の問題の発生時の対応、行為上の問題の予防的対応、行為上の問題の予防的訓練

■この分類と関連して直近では、以下のような介護施設を対象にした報酬改定がございました。関連して新しく行うようになった、または増加した行為がございましたら、ご記入ください。

- ・認知症行動・心理症状緊急対応加算の新設：認知症の利用者への見守り
- ・認知症専門ケア加算の新設：チームとしての専門的な認知症ケアの実施
- ・身体拘束廃止未実施減算の新設・強化：身体的拘束に関する記録の作成、身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会の開催、身体的拘束等の適正化に関する指針の作成、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的実施

①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②～④-1もご記入ください) 2. 変化を感じなかった
②利用者の状況・状態	
③介護内容の変化	
④変化の要因	
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

(8) **医療（大分類8）関連**

■この分類には以下の行為が含まれます。以下に含まれない行為がございましたら、ご記入ください。

薬剤の使用、呼吸器・循環器・消火器・泌尿器にかかる処置、運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉・歯科及び手術にかかる処置、観察・測定・監査、指導・助言、病気の症状への対応

■この分類と関連して直近では、以下のような介護施設を対象にした報酬改定がございました。関連して新しく行うようになった、または増加した行為がございましたら、ご記入ください。

- ・入所継続支援加算の新設：呼吸器、循環器、消火器、泌尿器に係る処置の実施
- ・かかりつけ医連携薬剤調整加算の新設：服薬内容に関する記録・報告
- ・所定疾患施設療養費の新設：肺炎、尿路感染症又は带状疱疹に対する介護
- ・日常生活継続支援加算の見直し：たんの吸引等が必要な入所者へのケア
- ・看取り介護加算の新設・強化：看取りのための計画の作成、看取りのためのケアの提供
- ・ターミナルケア加算の算定要件・評価の見直し：死亡日又は死亡日前14日以内、2日以上でのケアの提供

①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②～④-1もご記入ください)
	2. 変化を感じなかった
②利用者の状況・状態	
③介護内容の変化	
④変化の要因	
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:)
	2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

(9) **機能訓練（居室での機能訓練を含む）（大分類9）関連**

■この分類には以下の行為が含まれます。以下に含まれない行為がございましたら、ご記入ください。

基本日常生活訓練、応用日常生活訓練、言語・聴覚訓練、スポーツ訓練、牽引・温熱・電気療法

■この分類と関連して直近では、以下のような介護施設を対象にした報酬改定がございました。関連して新しく行うようになった、または増加した行為がございましたら、ご記入ください。

- ・生活機能向上連携加算の新設：生活機能の向上を目的とした計画の作成、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医師との情報交換

①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②～④-1もご記入ください)
	2. 変化を感じなかった
②利用者の状況・状態	
③介護内容の変化	
④変化の要因	
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:)
	2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

(10)	対象者に直接関わらない業務：連絡調整（大分類0）関連	
①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②～④-1もご記入ください) 2. 変化を感じなかった	
②利用者の状況・状態		
③介護内容の変化		
④変化の要因		
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)	
(11)	対象者に直接関わらない業務：記録・文書作成（大分類0）関連	
①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②～④-1もご記入ください) 2. 変化を感じなかった	
②利用者の状況・状態		
③介護内容の変化		
④変化の要因		
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)	
(12)	対象者に直接関わらない業務：入院(所)者の病棟等環境整備・掃除（大分類0）関連	
①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②～④-1もご記入ください) 2. 変化を感じなかった	
②利用者の状況・状態		
③介護内容の変化		
④変化の要因		
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)	

(13)	対象者に直接関わらない業務：入院(院)者の物品管理(物品購入を含む) (大分類0) 関連	
①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②～④-1もご記入ください)	
	2. 変化を感じなかった	
②利用者の状況・状態		
③介護内容の変化		
④変化の要因		
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:)	
	2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)	
(14)	対象者に直接関わらない業務：巡回、見渡し (大分類0) 関連	
<p>■この分類と関連して直近では、以下のような介護施設を対象にした報酬改定がございました。関連して新しく行うようになった、または増加した行為がございましたら、ご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間支援体制加算の新設：夜間の見守り ・見守り機器の導入した場合の評価：見守り機器に関する委員会の設置・運営 		
①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②～④-1もご記入ください)	
	2. 変化を感じなかった	
②利用者の状況・状態		
③介護内容の変化		
④変化の要因		
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:)	
	2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)	
(15)	対象者に直接関わらない業務：職員に関すること (大分類0) 関連	
①変化の有無 (いずれかお選びください)	1. 変化を感じた行為がある(②～④-1もご記入ください)	
	2. 変化を感じなかった	
②利用者の状況・状態		
③介護内容の変化		
④変化の要因		
④-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:)	
	2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)	

問3. 上記の間2の分類に当てはまらない行為が何かあれば、お答えください。

※介護業務に関連するものであれば、介護行為と直接関係していないものでも構いません。

※役職の変化やスキルアップによる「個人に起因する介護行為の変化」は含みません。

(1) ケース 1

①利用者の状況・状態	
②介護内容の変化	
③変化の要因	
③-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

(2) ケース 2

①利用者の状況・状態	
②介護内容の変化	
③変化の要因	
③-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

(3) ケース 3

①利用者の状況・状態	
②介護内容の変化	
③変化の要因	
③-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

(4) ケース 4	
①利用者の状況・状態	
②介護内容の変化	
③変化の要因	
③-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

(5) ケース 5	
①利用者の状況・状態	
②介護内容の変化	
③変化の要因	
③-1 上記変化に影響を及ぼしているICT機器または介護ロボット (ある場合のみご回答ください)	1. ICT機器を活用した(機器名:) 2. 介護ロボットを活用した(ロボット名:)

以下、本調査に対するご感想・ご意見についてご回答ください。

回答のしやすさ	1 回答するのは難しくなかった 2 回答が難しかった
上記で2を選択した場合、回答しに かった理由についてご記入ください。	

その他ご意見ございましたら、ご記入ください。

お聞きしたい内容は、以上となります。ご協力ありがとうございました。

参考資料：タイムスタディ調査記録票

タイムスタディ調査票

施設名 _____ 調査日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 利用者ID _____ 記入者 _____

時間	分	コード	職員の介護行為	利用者の状況	
			介護内容記録（具体的な介護行為、複数行に記録可）	場所	状況
	0				
	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
	21				
	22				
	23				
	24				
	25				
	26				
	27				
	28				
	29				
○	30				
○	31				
時	32				
	33				
	34				
	35				
	36				
	37				
	38				
	39				
	40				
	41				
	42				
	43				
	44				
	45				
	46				
	47				
	48				
	49				
	50				
	51				
	52				
	53				
	54				
	55				
	56				
	57				
	58				
	59				

場所

居室

リビング

キッチン

トイレ

浴室

ユニット外

状況

着座

ベッド上

歩行

車いす

参考資料：タイムスタディ調査 ケアコード表

ケアコード表

★：本調査で追加するコード

3桁	大分類	2桁	中分類	1桁	小分類	コード		
1	入浴・清潔保持 整容・更衣	1	入浴 (主に浴室・脱衣所内での介助) ※洗身・洗髪・洗面を含む ※浴室・脱衣所内の移動・移乗・体 位変換・浴槽への出入りを含む	1	準備	111		
				2	言葉による働きかけ	112		
				3	介助	113		
				4	見守り等	114		
				5	後始末	115		
				9	その他	119	★	
				2	清拭 (入浴時・排泄時を除く)	1	準備	121
						2	言葉による働きかけ	122
						3	介助	123
		4	見守り等			124		
		5	後始末			125		
		9	その他			129	★	
		3	洗髪 (入浴時を除く)	1	準備	131		
				2	言葉による働きかけ	132		
				3	介助	133		
				4	見守り等	134		
				5	後始末	135		
				9	その他	139	★	
		4	洗面・手伝い (入浴時を除く) (排泄時を含む)	1	準備	141		
				2	言葉による働きかけ	142		
				3	介助	143		
				4	見守り等	144		
				5	後始末	145		
				9	その他	149	★	
		5	口腔・耳ケア (入浴時を除く)	1	準備	151		
				2	言葉による働きかけ	152		
				3	介助	153		
				4	見守り等	154		
				5	後始末	155		
				9	その他	159	★	
		6	月経への対処	1	準備	161		
				2	言葉による働きかけ	162		
				3	介助	163		
				4	見守り等	164		
				5	後始末	165		
				9	その他	169	★	
		7	整容 (入浴後の頭髪のドライヤー乾燥を 含む)	1	準備	171		
				2	言葉による働きかけ	172		
				3	介助	173		
				4	見守り等	174		
				5	後始末	175		
				9	その他	179	★	
		8	更衣 ※浴室・脱衣所、トイレでの 更衣を除く	1	準備	181		
				2	言葉による働きかけ	182		
				3	介助	183		
4	見守り等			184				
5	後始末			185				
9	その他			189	★			
9	その他	9	その他	199				

2	移動・移乗 体位変換	1	敷地内の移動 (浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	1	準備	211	
				2	言葉による働きかけ	212	
				3	介助	213	
				4	見守り等	214	
				5	後始末	215	
				9	その他	219	★
		2	移乗 (浴室内・脱衣所、トイレ内を除く)	1	準備	221	
				2	言葉による働きかけ	222	
				3	介助	223	
				4	見守り等	224	
				5	後始末	225	
				9	その他	229	★
		3	起座 (ギャッジベッドは含まない)	1	準備	231	
				2	言葉による働きかけ	232	
				3	介助	233	
				4	見守り等	234	
				5	後始末	235	
				9	その他	239	★
		4	起立	1	準備	241	
				2	言葉による働きかけ	242	
				3	介助	243	
				4	見守り等	244	
				5	後始末	245	
				9	その他	249	★
		5	その他の体位変換 (浴室内・脱衣所、トイレ内・起座・ 起立時を除く) (ギャッジベッドの操作を含む)	1	準備	251	
				2	言葉による働きかけ	252	
				3	介助	253	
				4	見守り等	254	
				5	後始末	255	
				9	その他	259	★
		6	介助用具の着脱	1	準備	261	
				2	言葉による働きかけ	262	
				3	介助	263	
4	見守り等			264			
5	後始末			265			
9	その他			269	★		
9	その他	9	その他	299			

3	食事	1	調理 (対象者が調理するのを介助)	2	言葉による働きかけ	312	
				3	介助	313	
				4	見守り等	314	
				9	その他	319	★
		2	配膳・下膳 (対象者が配膳・下膳するのを介助)	2	言葉による働きかけ	322	
				3	介助	323	
				4	見守り等	324	
				9	その他	329	★
		3	食器洗浄・食器の片づけ (対象者がするのを介助)	2	言葉による働きかけ	332	
				3	介助	333	
				4	見守り等	334	
				9	その他	339	★
		4	摂食	1	準備	341	
				2	言葉による働きかけ	342	
				3	介助	343	
				4	見守り等	344	
				5	後始末	345	
				9	その他	349	★
5	水分摂取 (食事中を除く)	1	準備	351			
		2	言葉による働きかけ	352			
		3	介助	353			
		4	見守り等	354			
		5	後始末	355			
		9	その他	359	★		
9	その他	399					
4	排泄	1	排尿 (移乗・体位変換を含む) (浴室内を含む)	1	準備	411	
				2	言葉による働きかけ	412	
				3	介助	413	
				4	見守り等	414	
				5	後始末	415	
				9	その他	419	★
		2	排便 (おむつに係る介助を含む) (移乗・体位変換を含む) (浴室内を含む)	1	準備	421	
				2	言葉による働きかけ	422	
				3	介助	423	
				4	見守り等	424	
				5	後始末	425	
		9	その他	429	★		
		9	その他	499			

5	生活自立支援	1	洗濯 (対象者がするのを介助)	2	言葉による働きかけ	512	
				3	介助	513	
				4	見守り等	514	
				9	その他	519	★
		2	清掃・ごみの処理 (対象者がするのを介助)	2	言葉による働きかけ	522	
				3	介助	523	
				4	見守り等	524	
				9	その他	529	★
		3	整理整頓 (対象者がするのを介助)	2	言葉による働きかけ	532	
				3	介助	533	
				4	見守り等	534	
				9	その他	539	★
		4	食べ物の管理 (対象者がするのを介助) (調理以外)	2	言葉による働きかけ	542	
				3	介助	543	
				4	見守り等	544	
				9	その他	549	★
		5	金銭管理 (対象者がするのを介助) (家計簿・請求書処理)	2	言葉による働きかけ	552	
				3	介助	553	
				4	見守り等	554	
				9	その他	559	★
		6	戸締まり・火の始末・防災 (対象者がするのを介助)	2	言葉による働きかけ	562	
				3	介助	563	
				4	見守り等	564	
				9	その他	569	★
		7	目覚まし、寝かしつけ	1	準備	571	
				2	言葉による働きかけ	572	
				3	介助	573	
				4	見守り等	574	
				5	後始末	575	
				9	その他	579	★
		8	その他の日常生活 (集う、テレビを見る、読書をする、 たばこを吸うなど)	1	準備	581	
				2	言葉による働きかけ	582	
				3	介助	583	
				4	見守り等	584	
				9	その他	589	★
		9	相談・助言・指導を含む 会話、その他のコミュニケーション	1	挨拶・日常会話	591	
				2	心理的支援・訴えの把握	592	
				3	その他のコミュニケーション	593	
				4	生活指導	594	
				9	その他	599	★
		0	その他	9	その他	509	

6	社会生活 支援	1	行事、クラブ活動	1	準備	611	
				2	言葉による働きかけ	612	
				3	実施・評価・介助	613	
				4	見守り等	614	
				5	後始末	615	
				9	その他	619	★
		2	電話・FAX、E-mail、手紙 (対象者がするのを介助)	2	言葉による働きかけ	622	
				3	介助	623	
				4	見守り等	624	
				9	その他	629	★
		3	文書作成 (手紙を除く) (対象者が文書作成するのを介助)	2	言葉による働きかけ	632	
				3	介助	633	
				4	見守り等	634	
				9	その他	639	★
		4	来訪者への対応 (対象者が来訪者への対応をする際の 介助) ※家族を含む	2	言葉による働きかけ	642	
				3	介助	643	
				4	見守り等	644	
				9	その他	649	★
		5	外出時の移動	2	言葉による働きかけ	652	
				3	介助	653	
				4	見守り等	654	
				9	その他	659	★
		6	外出先での行為	2	言葉による働きかけ	662	
				3	介助	663	
				4	見守り等	664	
				9	その他	669	★
		7	職能訓練・生産活動	1	準備	671	
				2	言葉による働きかけ	672	
				3	介助	673	
				4	見守り等	674	
				5	後始末	675	
				9	その他	679	★
		8	社会生活訓練 (日常生活訓練、対人関係訓練、SST を含む)	1	準備	681	
				2	言葉による働きかけ	682	
				3	介助	683	
				4	見守り等	684	
				5	後始末	685	
				9	その他	689	★
		9	その他	9	その他	699	

7	行動上の問題	1	行動上の問題の発生時の対応	1	準備	711	
				2	言葉による働きかけ	712	
				3	対応	713	
				4	見守り等	714	
				5	後始末	715	
				9	その他	719	★
		2	行動上の問題の予防的対応	1	準備	721	
				2	言葉による働きかけ	722	
				3	対応	723	
				4	見守り等	724	
				5	後始末	725	
				9	その他	729	★
		3	行動上の問題の予防的訓練	1	準備	731	
				2	言葉による働きかけ	732	
3	実施・評価			733			
4	見守り等			734			
5	後始末			735			
9	その他			739	★		
9	その他	799					
8	医療	1	薬剤の使用 (経口薬、坐薬の投薬、自己注射、輸液、輸血など)	1	準備	811	
				2	言葉による働きかけ	812	
				3	介助・実施	813	
				4	観察・見守り等	814	
				5	後始末	815	
				9	その他	819	★
		2	呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置 (吸引、吸入、排痰、経管栄養)	1	準備	821	
				2	言葉による働きかけ	822	
				3	実施	823	
				4	観察・見守り等	824	
				5	後始末	825	
				9	その他	829	★
		3	運動器、皮膚、眼、耳鼻咽喉、歯科及び手術にかかる処置 (牽引・固定温・冷電法など)	1	準備	831	
				2	言葉による働きかけ	832	
				3	実施	833	
				4	観察・見守り等	834	
				5	後始末	835	
				9	その他	839	
		4	観察・測定・検査	1	準備	841	
				2	言葉による働きかけ	842	
				3	実施	843	
				5	後始末	845	
				9	その他	849	★
		5	指導・助言	1	準備	851	
2	誘いかけ・拒否時の説明			852			
3	実施			853			
5	後始末			855			
9	その他			859	★		
6	病気の症状への対応 (診察介助等)	1	準備	861			
		2	言葉による働きかけ	862			
		3	実施	863			
		5	後始末	865			
		9	その他	869	★		
9	その他	899					

9	機能訓練 (居室での機能訓練を含む)	1	基本日常生活訓練 (理学療法的訓練)	1	準備	911
				2	言葉による働きかけ	912
				3	実施、評価、デモンストレーション	913
				4	見守り等	914
				5	後始末	915
				9	その他	919
		2	応用日常生活訓練 (作業療法的訓練)	1	準備	921
				2	言葉による働きかけ	922
				3	実施、評価、デモンストレーション	923
				4	見守り等	924
				5	後始末	925
				9	その他	929
		3	言語・聴覚訓練 (言語・聴覚療法)	1	準備	931
				2	言葉による働きかけ	932
				3	実施、評価、デモンストレーション	933
				4	見守り等	934
				5	後始末	935
				9	その他	939
		4	スポーツ訓練 (体操、準備体操を含む)	1	準備	941
				2	言葉による働きかけ	942
				3	実施、評価、デモンストレーション	943
				4	見守り等	944
				5	後始末	945
				9	その他	949
		5	牽引・温熱・電気療法	1	準備	951
				2	言葉による働きかけ	952
3	実施、評価、デモンストレーション			953		
4	見守り等			954		
5	後始末			955		
9	その他			959	★	
9	その他	999				
0	対象者に直接関 わらない業務	1	対象者に関する事	1	連絡調整	011
				2	記録・文書作成	012
				3	入院(所)者の病棟等環境整備・掃 除(職員に関する場所・病室(居室)内 を除く)	013
				4	入院(院)者の物品管理 (物品購入を含む)	014
				5	巡回、見渡し	015
				9	その他	019
		2	職員に関する事	1	手洗い	021
				2	待機(仮眠)	022
				3	職員に関する記録・調整	023
				4	休憩	024
				5	職員に関する環境整備・掃除 (入所(院)者に関する場所を除く)	025
				6	移動	026
				7	その他職員に関する事	027
				9	その他	029
		9	その他	099		

科学的介護データの分析に資する介護行為の実態把握に係る調査研究事業
調査員説明会

次 第

日時 2020年1月24日 14:00～16:00
場所 三菱総合研究所 4F CR-C

1. 開会
2. 事業の趣旨・目的
3. タイムスタディ調査の実施方法
4. 介護行為のコード説明
5. 対象施設の概要
6. 今後のスケジュール
7. 質疑応答
8. 閉会

以上

参考資料：タイムスタディ調査 調査員マニュアル

【令和元年度老健事業】

科学的介護データの分析に資する介護行為の実態把握に係
る調査研究事業

(タイムスタディ調査)

調査員マニュアル

名前 _____

目次

1.	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
2.	1 分間タイムスタディとは・・・・・・・・	P 1
3.	調査に必要なもの・・・・・・・・	P 2
	1) 事前にお配りするもの	
	2) 説明会時にお配りするもの	
	3) 調査当日、各自が持参するもの	
	4) 調査当日お渡しするもの	
4.	調査の原則・・・・・・・・	P 3
5.	調査者の仕事・・・・・・・・	P 4
	1) 調査開始前	
	2) 調査票の記入方法	
	3) ケアコードの基本的考え方	
	4) ケアコード小分類の基本的考え方	
	5) 記入上の注意点	
	6) 対象者 ID の記入方法	
6.	調査当日の流れ・・・・・・・・	P 9
	1) 集合場所と集合時刻	
	2) 調査の流れ	
	3) 調査終了後	
7.	注意事項・・・・・・・・	P 1 2
	1) 調査中の注意	
	2) 服装など	
	3) 記入の場所など	
8.	チェックリスト・・・・・・・・	P 1 3
9.	参考例・・・・・・・・	P 1 4
10.	職員の方へのお願い・・・・・・・・	P 2 0

次の者が今回の調査を担当いたします。

調査管理者(氏名) ; _____
(氏名) ; _____

調査連絡係(氏名) ; _____
(氏名) ; _____

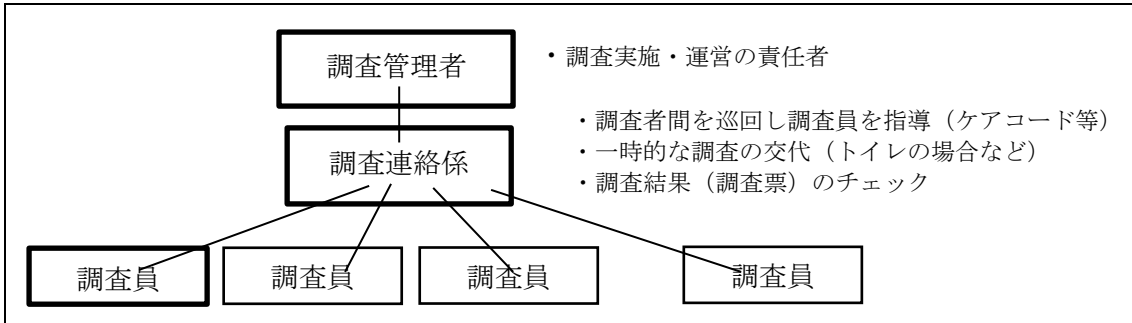
《調査期間の連絡先》

TEL _____ (内) _____ (調査対象病棟等)
TEL _____ (内) _____ (集合場所)
TEL _____ (内) _____ (夜間)

《調査期間外の連絡先》

TEL _____

図表 1 調査体制



1 はじめに

このたびは「科学的介護データの分析に資する介護行為の実態把握に係る調査研究事業」へのご協力ありがとうございます。この調査は、介護保険施設の職員（介護者）の方が、施設の高齢者（対象者）の方に対し、どのような内容のケアをどのくらいの時間行っているかについて計測するものです。計測は1分間タイムスタディという調査手法を用いて実施します。

2 1分間タイムスタディとは

1分間タイムスタディは、介護者（職員の方）がどのような内容のケアを、どの対象者（高齢者）の方に対し提供しているか、を1分ごとに観察し記録する調査です。

その方法として、一人ひとりの介護者（職員の方）が、1分ごとに何のケアを、誰に、提供しているかを観察し、記録します。

今回の調査では、1人の対象者（高齢者の方）に1人の調査員（みなさん）が常時同行し、介護者（職員の方）が実施している対象者へのケア内容と、対象者の状況を、1分ごとに観察・記録します。

調査員（みなさん）は、1分ごとに介護者（職員の方）が実施しているケア内容と対象者（高齢者）の方の氏名を観察の上、記述し、該当するケアコード、対象者IDを記入します。

※一般的に行われる、介護者（職員の方）に常時同行する方式のタイムスタディ調査とは異なりますので、ご注意ください。

3 調査に必要なもの

- 1) 事前にお配りするもの（説明会時にお持ち下さい）
 - ① 調査票（見本）
 - ② ケアコード表
 - ③ ケアコード別内容例
 - ④ 調査員マニュアル（このマニュアルのことです）

- 2) 説明会時にお配りするもの
 - ① 調査担当表

3) 調査当日、各自が持参するもの

- ② 時計（秒針付のもの、または秒単位の時間がわかるもの）
- ③ 室内履き（靴底の平らなスニーカー等、スリッパを除く）と靴入れ用のビニール袋

注）靴は、各自ビニール袋に入れ、所定の場所に保管してください。

- ④ お弁当（食事や休憩中も、職員の方と一緒に行動して頂きます。）
- ⑤ 調査員マニュアル
- ⑥ 調査担当表
- ⑦ ケアコード表
- ⑧ ケアコード別内容例

事前にお配りした資料

4) 調査当日お渡しするもの

調査用セット

- ① 調査票（1 時間 1 枚 [表・裏 各 30 分]）
- ② 対象者名簿
- ③ シャープペンシル（付属消しゴム） / 記入ボード
- ④ 名札（調査員用）

※対象施設の事情により、変更されることがありますので、集合後の連絡事項を確実に確認するようご注意ください。

4 調査の原則

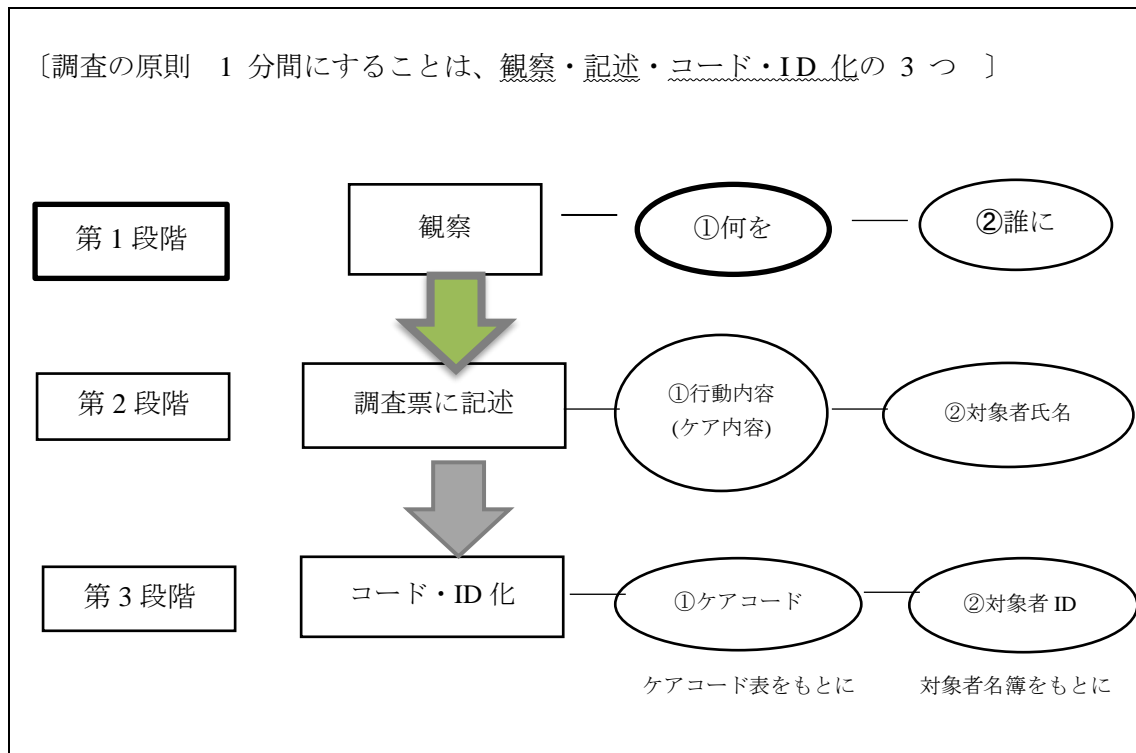
みなさんは調査時間中、常に自分の担当職員の方の後ろについて 1 分ごとに介護者（職員の方）の実施しているケア内容と対象者（高齢者）の方の氏名を観察し、正確に記述します。

次に その内容をケアコード、対象者 ID にして記入 していきます。

1 分ごとに観察・記述し、ケアコード・対象者 ID を記入する、という原則は調査上非常に重要になります。

例えば介護者（職員の方）が 12 時 00 分 00 秒に何のケアを対象者（高齢者の方）に対して行っているのか、12 時 01 分 00 秒には何をしているのか、12 時 02 分 00 秒には...、というように 1 分ごとに観察し、記入します。調査の原則を図式化すると、次のようになります。詳しくは順次述べていきます。

図表 3 調査の原則



5 調査員の仕事

1) 調査開始前

・調査開始前に以下 (①～⑤) の基本情報を、調査票に記入します。

- ①調査員ID...自分のID。
- ②施設ID...施設ごとに決まっています。みなさんは と記入します
- ③職員ID...調査担当表より、職員IDを記入します。(調査担当者表参照)
- ④月、日
- ⑤時(24時法で記入をして下さい。例;午前4時→04、午後8時→20)

2) 調査票の記入方法

調査中はどんなケアを、誰に、行ったかという二つの内容を、観察及び記述し、コード・ID化します。

①ケア行為内容の観察・記述

毎分00秒に、どのようなケアを提供しているかについてはケアコード別内容例を参考にして観察し、「行動内容」欄に記述します。

②対象者の観察・状況把握

ケアコード内容を記述後、対象者を観察し、場所(所在)、状況を選択肢の中から記入します。適切なものが無ければ、自由記述で記録します。

③ケアコード内容のコード化

ケアコード一覧に基づいて、コード化します。

コード化にあたって、既存の項目にあてはまりにくい行為があれば、無理して紐づけることはせず、中分類または大分類にある「その他」コードを用いてください。

1分ごとに
繰り返す

図表 記録方法

タイムスタディー調査票

施設名 _____ 調査日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 利用者ID _____ 記入者 _____

①ケア内容の記述
「職員の方が何をしているか」

②対象者の状況
「右端の一覧から選択」
「該当しない場合自由記述」

			職員の介護行為	利用者の状況	
時間	分	コード	介護内容記録（具体的な介護行為、複数行に記録可）	場所	状況
○ ○ 時	0				
	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
14					

③ケア内容のコード化
「ケアコード表」より該当するコードを選択/記入。
「その他」コードも積極的に活用。

場所
居室
リビング
キッチン
トイレ
浴室
ユニット外

状況
着座
ベッド上
歩行
車いす

調査時間中、上記記録方法の①～③を1分ごとに繰り返し、実施します。

3) ケアコードの基本的考え方

ケアコードは9種類の大分類（1 0 0の位）に分かれています。9種類とは、1. 入浴・清潔保持・整容・更衣、2. 移動・移乗・体位交換、3. 食事、4. 排泄、5. 生活自立支援、6. 社会生活支援、7. 行動上の問題、8. 医療、9. 機能訓練、0. 対象者に直接かかわらない業務。

大分類は中分類（10の位）に、中分類は小分類（1の位）に分かれています。中分類は主としてケアの目的を示しています。小分類は主としてケアの提供方法を示しています。例えば準備、言葉による働きかけ、介助、見守り等、後始末などです。

図表 ケアコードの基本的な構造

大分類(100の位)	中分類(10の位)	小分類 (1の位)
1 入浴・清潔保持・整容・更衣 2 移動・移乗・体位交換 3 食事 4 排泄 5 生活自立支援 6 社会生活支援 7 行動上の問題 8 医療 9 機能訓練 0 対象者に直接かかわらない業務	(主にケアの目的)	1 準備 2 言葉による働きかけ 3 介助 4 見守り等 5 後始末 9 その他 ※小分類ごとに選択肢は異なりますので注意して下さい。

4) ケアコード小分類の基本的考え方

ケアコードの小分類（1の位）の基本形の定義は次のようになります。
（大分類0 [対象者に直接かかわらない業務]には、当てはまりません。）

図表 ケアコード（大分類 1～9）における小分類の定義

小分類（1 の位）	定義
1;準備	介助のための準備作業を指す。
2; 言葉による働きかけ	介助を実施するために、対象者へ介助への協力を促す。声掛けにより、行動を促す。拒否された場合に、説明や説得を行う。などを指す。
3; 介助（実施・対応）	対象者と相対して、介助を提供している状況を指す。介助の提供中に、対面で注視しながら待機・観察している場合も介助に含める。（例 1; 対 1 で食事介助中に、食べ物を飲み込むのを待って、次の食べ物を与えようとして観察している状況。）
4; 見守り等	対象者と相対していない状態で、介助が必要かどうか対象者を観察している状況を指す。直接手の届かない距離から対象者を観察している。他の対象者の介助をしながら観察している。などを指す。
5; 後始末	介助実施後の後片付けの作業を指す。

※対象者が特定されていない状況で、施設内を見回っている場合は、「091;巡回、見渡し」のケアコードを使用します。

5) 記入上の注意点

① 記述の際の注意点 1

原則としてケア内容や対象者氏名は、各自の調査時間内に記述し、コード・ID化して下さい。

② 記述の際の注意点 2

「ケアコード」欄は、全ての行に記入して下さい。
「 〃 」や、「↓」などで記入を省略することはできません。

③ ケア内容記述のための簡略化符号

「ケア内容」欄の記述に関しては、簡略化のルールを設けますので、該当する場合は簡略化符号を利用しても構いません。介護者（職員の方）のケア内容を観察する場合、「準備」、「言葉による働きかけ」、「介助」、「見守り」、「後始末」を区別するようにして下さい。

図表 簡略化符号（例）

観察したケア内容	簡略化符号の記述例
〇〇の準備	〇〇J （準備の略記；J）
××の言葉による働きかけ	××H （言葉による働きかけの略記；H）
△△の介助・実施	△△K （介助の略記；K）
◆◆の見守り	◆◆M （見守りの略記;M）
□□の後始末	□□A （後始末の略記;A）

④ ケア内容の確認

原則として毎分 00 秒の瞬間に行っている主なケアが観察の対象とな

りますが、実際には、その瞬間に1種類のケアのみではなくて複数のケアを行っている場合もあります。その場合、どのケアを記述して良い分からない場合には、介護者（職員の方）の手が空いたときに確認して下さい。

特に、問題行動のケアについては、一般のケアと区別出来ない場合がありますので、介護者（職員の方）に確認して下さい。詳細はケアコード別内容例を参考にして下さい。

介護者（職員の方）には、ケアに支障がない範囲で出来るだけ、行為を行う前などに「これから〇〇さんに△△を行います。」とか「□□をしています。」と調査員のみなさんに伝達（小声でつぶやくこと。）をしてくれるよう、お願いしています。もし不明なことがあれば、介護者（職員の方）の休憩時間や調査終了後確認するようにして下さい。

⑤介護者（職員の方）が離れた場所からケアをする場合

対象者に対する声かけなど、介護者（職員の方）が離れた場所からケアを行う場合があります。その場合は、介護者の所在に関わらず、ケアが行われたという記録を行ってください。

ユニット型等の個室のため、声かけの実施の有無を判断できない場合については、対象施設により事前に対応を定めますので、当日の実施作業説明を確認してください。

⑥その他

今回の調査では、対象者（高齢者の方）に寄添った調査となるため、職員が対象者の身近に居ない時間帯があります。その場合は、「介護内容記録」欄に「職員不在」と記録してください。

⑥その他

ケア内容に合致するケアコードが見あたらない場合には、ケア内容を正確に記述して、その他コードを記載ください。

その他コードは、中分類と大分類それぞれに設けてあります。ケアの目的が明らかな場合は、中分類のその他コードを、それが難しい場合は、大分類のその他コードを、それぞれ記録してください。

後で、介護者（職員の方）に確認して、より正確な情報が得られた場合は、休憩時間や調査終了後に修正して下さい。

その他観察しているときに分からないこと、困ったことなどが発生した場合には何でも良いので、調査連絡係が巡回してきた時にすぐ相談して、解決するようにしましょう。

6 調査当日の流れ

1) 集合時刻と集合場所

① 集合時刻

集合時刻は、各自の調査時間の開始30分前です。時間厳守ですので、絶対に遅れないようにしてください。

② 集合場所

集合場所は次のとおりですのでメモをしてください。

集合場所； _____
TEL ； _____ 内線（ _____ ）

2) 調査の流れ

調査は次の表のように行われます。

図表 調査の流れ

① 集合	各自の調査時間の開始 30分前 ^{注1)} までに調査管理者が指定した集合場所に来て下さい。 施設に入ったら、室内履きに履き替え、外履きは各自持参のビニール袋に入れ、所定の位置に置いて下さい。
② 受領	調査用セット ^{注2)} を受け取り、内容を確認して下さい。特に調査票の必要枚数、シャープペンシルの残芯に注意して下さい。 調査連絡係と時計の時刻合わせを行います。
③ 記入	全ての調査票の本人ID、施設ID、月日を記入します。 (深夜0時から、日付が変わることに注意して下さい)
④ 移動	記入が終わったら、調査連絡係とともに、調査場所へ移動します。
⑤ 顔合わせ	調査連絡係がみなさんを担当する施設職員の方のもとへ案内します。
⑥ 調査開始	各自の時計で調査を開始します。
⑦ 調査中	不明な点があれば巡回中の調査連絡係に質問してください。 トイレ等の場合、調査連絡係が一時的に交代します。
⑧ 食事・休憩	職員の方と共に、休憩、食事 ^{注3)} (各自持参)をとります。この際に、ケア内容や対象者の方の氏名の不明な点があったら、職員の方に質問するようにしてください。
⑨ 内容確認	調査終了後、集合場所に戻り調査票のチェックを実施します。記入内容が正しいかあらためて確認します。
⑩ 調査票提出	調査連絡係または調査管理者のチェックを受け、指示に従い修正します。終了後、調査票を提出します。
⑪ 返却	調査用セットを返却します。
⑫ 帰宅	お疲れ様でした。

注 1) 集合に遅れる場合は、調査管理者または調査連絡係に連絡をしてください。

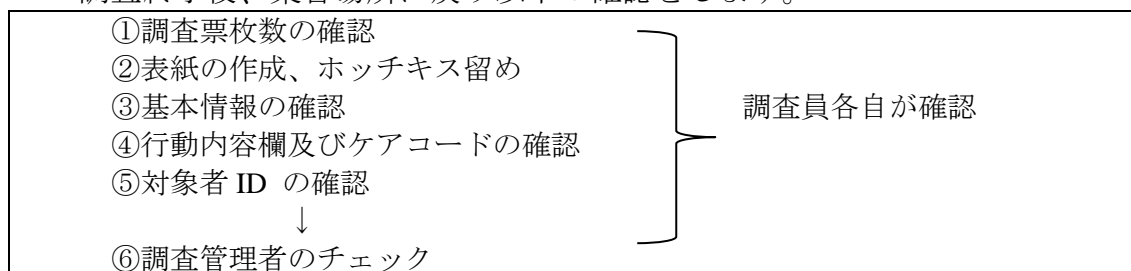
注 2) 調査用セットには、次のものが含まれています。

- (1) 調査用紙 (1 時間 1 枚 [表・裏 各 30 分])
- (2) ケアコード表
- (3) 対象者名簿
- (4) シャープペンシル (付属消しゴム) / 記入ボード
- (5) 名札等 (調査員用)

注 3) 介護者 (職員の方) と一緒に食事をとれない場合は、調査管理者または調査連絡係に連絡をしてください。

3) 調査終了後

調査終了後、集合場所に戻り以下の確認をします。



① 調査票枚数の確認

各自の調査時間帯すべての調査票があるかどうか確認して下さい。

② 表紙の作成、ホッチキス留

調査管理者から調査票の表紙 (1 枚) を受け取り、裏面の記入欄に調査員 ID 等を記載する。①で枚数を確認した調査票と、表紙をまとめて、左上をホッチキス留めする。

③ 基本情報の確認

・ 調査員 ID ・ 施設 ID ・ 職員 ID ・ 月日 時

④ 行動内容及びケアコードの確認

「行動内容」欄に記述した観察内容とケアコードが正しく対応しているか、ケアコード表と照らし合わせ再確認をして下さい。

特に調査中に、コード化が困難だった場合などは注意して下さい。

ケアコードや対象者 ID を 誤って記入した場合、続けて誤る傾向がありますので注意してください。

⑤ ケアの対象者及び対象者 ID の確認

毎分の記録において、対象者の方の対象者 ID が正しく記入されているか確認します。

特に、対象者が複数の場合や、調査対象者の方の中に同姓の対象者の方がいる場合には、対象者 ID が正しいか、再確認を行って下さい。

⑥ 調査管理者のチェック

①～④の確認が終わったら調査管理者にチェックを依頼し、指摘された点を修正した上で調査票を提出して下さい。

7 注意事項

1) 調査前の準備（ケアコード内容例の確認）

調査員のみなさんには、1分ごとに職員の方の行動を記録して頂きますが、その後、記録した内容（行動内容）を該当するケアコードに変換して頂きます。そのため、事前にケアコードの内容を理解しておくことにより、よりの確な記録をすることが可能となります。調査準備として、必ずケアコード内容例を確認して下さい。（例えば、移乗と起座、起立、その他の体位変換の違いは何か。機能訓練には、基本日常生活訓練〔理学療法的訓練〕のほか、スポーツ訓練のコードがある。など、どんなケアコードがあるかを必ず確認しておいて下さい。）

2) 調査中の注意

みなさんが「どこから来たの？」などと対象者の方等に話しかけられる場合や、「水をもってきて」などと支援を求められる場合もあるでしょう。特に、簡単に出来ることであればみなさんの方もつい手を出したくなるかもしれません。しかし調査中は、決して一緒に話し込んだり手を出したりすることのないようにして下さい。「お話しできないのです、ごめんなさい。」「お手伝いできません、すみません。」などとお断りしましょう。職員の方に手伝いを求められた場合も同様です。他の調査員との会話はもちろん慎みましょう。

調査中、みなさんは、原則として介護者（担当職員の方）と行動を共にします。トイレは、出来るだけ介護者（担当職員の方）が行くときに一緒に済ませましょう。

その他緊急の事態が発生し、介護者（担当職員の方）のもとを離れなければいけないときには調査連絡係に相談しましょう。

3) 服装など

- ・服装は清潔で活動的なものとします。
- ・室内履きは歩きやすく出来るだけ音のしないものとします。ナースシューズや白のスニーカーが望ましいでしょう。

4) 記入の場所など

- ・調査中には壁際に立つなどして、介護者（職員の方）や対象者の方の邪魔にならないように注意しましょう。

8 チェックリスト

調査員の皆様は次の事項をご理解頂けましたでしょうか。

1. 調査開始直前に何をしますか。
2. 観察は、どのタイミングで行いますか。
3. 1 分間に行うことには、何がありますか。
4. ケアコードの大分類には何がありますか。
5. ケアコードの中分類には何がありますか。
6. ケアコードの小分類には何がありますか。
7. ケア内容が分からない時にはどうしますか。
8. ケアコードが分からない時にはどうしますか。
9. ケアの対象となる対象者がいない時はどのように記録しますか。
10. 対象者が複数いる場合はどのように記録しますか。
11. 対象者が、調査対象外の場合はどのように記録しますか。
12. 「 888 」はどのような時に用いますか。
13. 介護者（職員の方）のトイレや、休憩時にはどうしますか。
14. 調査終了後の確認作業には、何がありますか。

9 参考例

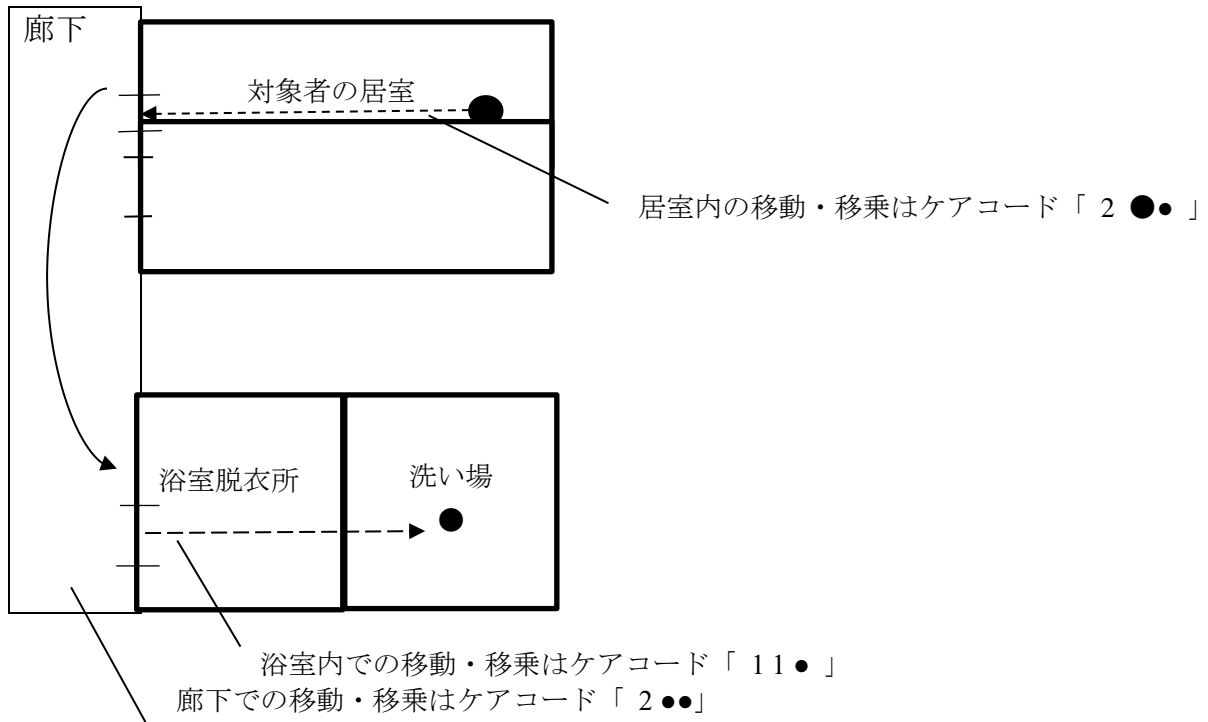
入浴ケア

入浴ケアにおける介護者（職員の方）の一連の行動としては、以下のようなものが挙げられます。

ケア内容	ケアコード
入浴の誘い	1 1 2
↓	
居室から脱衣所までの移動の見守り	2 1 4
↓	
衣服をぬぐ際の見守り	1 1 4
↓	
脱衣所から洗い場への移動の見守り	1 1 4
↓	
洗い場から浴槽への移動の見守り	1 1 4
↓	
入浴の見守り	1 1 4
↓	
洗身の介助	1 1 3
↓	
浴槽から脱衣所への移動の見守り	1 1 4
↓	
濡れた身体を拭く介助	1 1 3
↓	
衣服を着る際の見守り	1 1 4
↓	
浴室から居室までの移動の見守り	2 1 4
↓	
職員が浴室まで戻る	0 2 6

なお、入浴のケアコードには、浴室での移動・移乗が含まれています。これを図示すると以下ようになります。すなわち、居室での移動・移乗は大分類「2」のケアコードであり、脱衣所に入ってからは大分類「1」の入浴の移動・移乗・体位変換のケアコード（111～115）を用います。

図表 16 入浴のケアコードの区別方法



※入浴の際の衣服着脱の介助は、入浴に含まれます。洗い場や脱衣所での衣服着脱は（111～115）の入浴のケアコードを用います。衣服着脱のケアコード（181～185）は、入浴時や排泄時（排泄時の衣服の着脱）を除いた場合に適用します。

また、調査の際には、対象者（入所者）の方のプライバシー確保に留意して下さい。

排泄ケア

排泄の介助のための介助者（職員の方）の一連の行動の例をあげます。

例 1：車椅子でトイレに移動させ排泄介助を行う場合

ケア内容	ケアコード
排泄の誘い	4 1 2
↓	
ベッドから車椅子への移乗介助	2 2 3
↓	
トイレまでの車椅子をおす	2 1 3
↓	
車椅子から便器への移乗介助	4 1 3
↓	
衣服を脱がせる	4 1 3
↓	
排泄の介助	4 1 3
↓	
排泄後の清拭介助	4 1 3
↓	
衣服を着せる	4 1 3
↓	
便器から車椅子への移乗介助	4 1 3
↓	
手洗いの介助	1 4 3
↓	
病室までの車椅子を押す	2 2 3
↓	
車椅子からベッドへの移乗介助	2 2 3

例 2：オムツ交換を行う場合

オムツ交換には、排泄介助のケアコード(421～425)を使用します。

ケア内容	ケアコード
オムツ交換の声かけ	422
↓	
排泄時の体位変換介助	423
↓	
衣服を脱がせる	423
↓	
オムツカバーをはずす	423
↓	
オムツをはずす	423
↓	
おしりをふく介助	423
↓	
オムツをつける	423
↓	
オムツカバーをつける	423
↓	
腰をあげてもらふ	422
↓	
衣服を着せる	423

排泄の調査の際には、高齢者の方のプライバシーに留意して下さい。

食事ケア

ケア内容	ケアコード
食事のテーブルのセッティング	341
↓	
食事の誘い	342
↓	
ベッドから車椅子の移乗介助	223
↓	
食事のテーブルまでの車椅子での移動介助	213
↓	
エプロンをつける	341
↓	
食事の配膳	341
↓	
スプーンで食べさせる	343
↓	
吸い飲みでお茶を飲ませる	353
↓	
バナナの皮をむく	343
↓	
入居者の方の口の回りをふく	343
↓	
口の中に食べ物が残っていないか確認	343
↓	
エプロンをとる	345
↓	
車椅子で洗面所へいく	213
↓	
義歯を取り外すのを見守る	154
↓	
義歯用洗浄水を準備する	151
↓	
義歯を洗浄水に入れる	153
↓	
義歯を入れた洗浄水を所定の位置に置く	155

食事のケアコードでの、「食事の準備」と「食事の介助」の区別ですが、原則として、食器をテーブルまで持っていく介助までを食事の準備(341)とし、テーブルで実際に高齢者の方に食事の介助をするのは食事の介助(343)となります。その他、食事中に口腔内の食物の残りが無いか確認するのも、食事の介助(343)となります。

10 職員の方へのお願い

1) 調査開始前

勤務前に調査員との顔合わせをお願いします。調査管理者から紹介がありますので、自分の担当の調査員が誰になるのか確認して頂きますようお願いいたします。

2) 調査期間中

・高齢者の名札シール貼付のお願い

調査員は高齢者の方のお名前が分かりませんので、名札シールの貼付をお願いします。調査管理者の方から受領した名札シールを、調査開始の1時間前に貼付し、調査が終了するまでの間は、高齢者の方に名札シールを貼付して頂きますようお願いいたします。着替え等で衣服が替わった場合は、名札シールを貼り直してください。

なお、高齢者の方のお名前が分かる方法が他にあれば、それで結構です。

・「ケア内容」及び「高齢者の方のお名前」の伝達

ケア対象の高齢者の方のお名前とケアの内容をできるだけ調査員に伝達してください。例えば「〇〇さん、食事に行きますよ。」「今は、〇〇さんの排泄の見守りをしています。」「今から××さんの筋力について評価します。」

というようにできるだけ伝達して下さい。特に、問題行動に対するケアの場合は、意識的に例えば「△△さんの徘徊を見守りしています。」「〇〇さんが興奮しないように話かけています。」などと調査員に伝達して下さい。

※調査中や休憩時間に、調査員がケア内容等に関して質問する場合がありますので、ご理解の上ご協力をお願いいたします。

令和元年度 老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）

科学的介護データの分析に資する
介護行為の実態把握に係る調査研究事業

令和2（2020）年3月発行

発行 株式会社 三菱総合研究所 ヘルスケア・ウェルネス事業本部

〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3

TEL 03（6858）0503 FAX 03（5157）2143

不許複製